

03年度以降（春）	情報科学概論 a	担当者	呉 浩東
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。</p> <p>本講義では、（１）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（２）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（３）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義の概要と目標、情報科学とは</li> <li>2 データ表現、基数変換、論理演算</li> <li>3 コンピュータの構成要素</li> <li>4 ソフトウェアの役割、体系と種類</li> <li>5 オペレーティングシステム（OS） OSの基礎概念、OSの役割と原理</li> <li>6 プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的</li> <li>7 データ構造—リスト、スタック、キュー、2分木</li> <li>8 アルゴリズム—アルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例</li> <li>9 コンピュータによる言語情報処理技術（１）</li> <li>10 コンピュータによる言語情報処理技術（２）</li> <li>11 機械翻訳システムの演習</li> <li>12 自然言語質問応答システム</li> <li>13 インターネット上の多言語処理技術</li> <li>14 授業のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。		レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[英語][ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[総合]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件・概要：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことがある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][ヨーロッパ言語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[英語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）[総合][英語]」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[入門] 情報科学各論（情報処理演習）[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人1台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、[応用]科目を履修できる。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または[応用]の各科目を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・PCの基本操作</li> <li>2. OSとOfficeの基礎</li> <li>3. Word (1)</li> <li>4. Word (2)</li> <li>5. Word (3)</li> <li>6. インターネットの活用法(1)</li> <li>7. インターネットの活用法(2)</li> <li>8. Excel (1)</li> <li>9. Excel (2)</li> <li>10. Excel (3)</li> <li>11. PowerPoint (1)</li> <li>12. PowerPoint (2)</li> <li>13. PowerPoint (3)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論 (Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（プレゼンテーション中級）」を履修した人の人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1)</li> <li>3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出</li> <li>4. グラフ作成、装飾の確認</li> <li>5. 関数の利用(1)</li> <li>6. 関数の利用(2)</li> <li>7. 関数の利用(3)</li> <li>8. マクロの利用(2)</li> <li>9. マクロの利用(3)</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>11. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『文科系学生のための情報活用』（共立出版）各担当教員の指定する参考文献を使用する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数に変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（プレゼンテーション中級）	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（情報処理演習）」のいずれか、または「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 書式設定、スライドの設定</li> <li>3. スライドショーと特殊効果(1)</li> <li>4. スライドショーと特殊効果(2)</li> <li>5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1)</li> <li>6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2)</li> <li>7. オブジェクトの挿入(1)</li> <li>8. オブジェクトの挿入(2)</li> <li>9. プレゼンテーション実習(1)-1</li> <li>10. プレゼンテーション実習(1)-2</li> <li>11. 配付資料の作成</li> <li>12. プレゼンテーション実習(2)-1</li> <li>13. プレゼンテーション実習(2)-2</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数に変更になることがある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（Word 中級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす）」を履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. 段落、段組、その他書式設定(1)</li> <li>3. 段落、段組、その他書式設定(2)</li> <li>4. アウトラインに沿った編集(1)</li> <li>5. アウトラインに沿った編集(2)</li> <li>6. 脚注・コメントの作成</li> <li>7. ワードアートの利用</li> <li>8. 図形の利用(1)</li> <li>9. 図形の利用(2)</li> <li>10. 図形の利用(3)・組織図の作成</li> <li>11. 目次作成・索引作成</li> <li>12. Excel との連携(1)</li> <li>13. Excel との連携(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	[応用] 情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[応用] 情報科学各論（Office 中級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。</p> <p>実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス・基本操作の確認</li> <li>2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定</li> <li>3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成</li> <li>4. Word (3) ワードアートの利用</li> <li>5. Word (4) 図形の利用(1)</li> <li>6. Word (5) 図形の利用(2)</li> <li>7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認</li> <li>8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に</li> <li>9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に</li> <li>10. PowerPoint (1) 基本操作の確認</li> <li>11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用</li> <li>12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1)</li> <li>13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2)</li> <li>14. まとめ</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（春）	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>[目的]</b> この授業では、言語が機械（コンピューター）可読の資料になったとき、それらをどのような方法で分析し、その結果をどのようなことに生かせるのかについて知り、考えることを目的とする。</p> <p><b>[概要]</b> コンピューター・データベース化された大量の自然言語資料を「コーパス」といい、近年では数多くの辞書や文法書、外国語学習書にその分析結果が生かされている。コンピューターを利用することにより、人間の目あるいは直感では知りえないことがわかっていくということがある。たとえば「この世の中で最も多く使われている英単語トップ10は何か」とか、「日本の高校で使われている単語は、英字新聞の何%をカバーしているのか」といったことである。 本授業では、さまざまなジャンル、モード、発話者から集められたコーパスを、専用のソフトウェアを用いて分析する演習を中心に進められる。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. コーパスとは何か</li> <li>3. コンピューターの基本操作: テキストエディタ</li> <li>4. コンピューターの基本操作: MS Excel</li> <li>5. 高度な Web 検索方法</li> <li>6. British National Corpus (BNC) の紹介</li> <li>7. BNC を利用した語句検索</li> <li>8. BNC を利用した共起検索</li> <li>9. BNC を利用した話し言葉と書き言葉の比較</li> <li>10. コーパスの作成: 映画コーパスを作る</li> <li>11. 映画コーパスの分析: 口語表現の特徴</li> <li>12. 映画コーパスの分析: ジャンルによる違い</li> <li>13. 映画コーパスの分析: 品詞分析</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降（秋）	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	木村 恵
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>[目的]</b> 春学期に引き続き、コーパス分析を行うが、今学期は英語学習者による話し言葉・書き言葉を集めた、「学習者コーパス」を分析の対象とする。私たち自身を含む英語学習者の発話を分析することにより、どのような語彙・文法使用および誤り（エラー）がわれわれ日本人英語学習者の特徴なのかを知り、今後の学習や教育に生かすことを目的とする。</p> <p><b>[概要]</b> 前半は日本人 1200 人分の英語によるインタビューデータを収集し、コーパス化した NICT JLE Corpus を扱う。後半は日本人中高生の 1 万におよぶ英作文を集めた JEFLL Corpus を扱う。いずれも異なる英語力を持つ学習者グループのデータを含んでいるため、「英語力が低い人と高い人は具体的に何が違うのか？」という疑問に対する答えを求めるため、語彙、文法、談話、誤り等の観点から分析を行う。 ※ 基本的なパソコン操作ができることが望ましい ※ 「言語情報処理 I a」を受講していることが望ましい</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 学習者コーパスとは</li> <li>3. NICT JLE Corpus の概要</li> <li>4. NICT JLE Corpus の分析 (1)</li> <li>5. NICT JLE Corpus の分析 (2)</li> <li>6. NICT JLE Corpus の分析 (3)</li> <li>7. NICT JLE Corpus の分析 (4)</li> <li>8. JEFLL Corpus の概要</li> <li>9. JEFLL Corpus の分析 (1)</li> <li>10. JEFLL Corpus の分析 (2)</li> <li>11. JEFLL Corpus の分析 (3)</li> <li>12. JEFLL Corpus の分析 (4)</li> <li>13. <u>最終レポート</u>の準備 (1)</li> <li>14. <u>最終レポート</u>の準備 (2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する。		出席+授業活動への参加度+レポートにより評価する。特に出席については、累積で失格、欠席の場合に課題提出を求めるなど厳しく対応するため注意すること。	

03年度以降(春)	情報科学各論（言語情報処理1）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）</b></p> <p>本講義では、最終的にはコンピュータというメガネを通して、「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば、皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時、どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが、必ずしも近くにいるとは限りませんし、聞く相手によって答えが揺れることもあります。</p> <p>そんな時に、一つのヒントを与えてくれるものが、「コーパス」です。コーパスというのは、コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで、普通の辞書では得られない例文を見つけたり、また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。</p> <p>本講義では、まず春学期に情報処理の基本的な考え方、発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析（下に続く↓）</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：言語情報処理とは何か</li> <li>2 言語情報処理とコーパス・表計算一巡り</li> <li>3 計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等)</li> <li>4 Excel 関数(算術・統計関数を中心に)</li> <li>5 Excel 関数(文字列操作関数を中心に)</li> <li>6 Excel 関数(論理関数を中心に)</li> <li>7 Excel 関数のネスト（1）</li> <li>8 Excel 関数のネスト（2）</li> <li>9 データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)</li> <li>10 データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)</li> <li>11 データベース上のデータの蓄積方法</li> <li>12 自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など</li> <li>13 まとめと演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末試験および2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降(秋)	情報科学各論（言語情報処理2）	担当者	吉成 雄一郎
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが、それらのツールは特定の処理には適しているものの、汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく、あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。</p> <p>秋学期は、春学期に学んだ Excel の知識を活用して、学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から、コーパスの構築の仕方、および Excel で KWIC Concordance を実現する手法、および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに、本格的なコーパス、約1億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は、コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましよう。</p> <p>本講義で修得したコンピュータを使った見方と、構築した自分専用のコーパスは、講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 講義のガイダンス：コーパスとその応用</li> <li>2 Access 上にデータを格納</li> <li>3 Access のデータを引き出して Excel で分析</li> <li>4 コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。</li> <li>5 コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。</li> <li>6 コンコーダンスラインの利用(3)：演習</li> <li>7 品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて、より精密な分析を試みる。また、自動タグ付けも試みる。</li> <li>8 タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。</li> <li>9 最先端のコーパスの現状：体験アクセス</li> <li>10 「文体」をどうとらえるか。一文の長さ</li> <li>11 文の長さが意味するものー標準偏差・変動係数</li> <li>12 語彙密度・K 特性値</li> <li>13 まとめと演習</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト、参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ (<a href="http://www.yuchan.com/~gengojoho/">http://www.yuchan.com/~gengojoho/</a>) を参照すること。</p>		<p>学期末レポートおよび2回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。</p>	

03年度以降（春）	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用1）」のいずれかを履修した人は履修できない。また、「情報科学各論（HTML 中級）」との重複履修はできない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[HTML] 情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的・概要：この授業は、[入門] 情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする。</p> <p>まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの1つであるWWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。</p> <p>履修条件：2008年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）」のいずれかを履修した人、2009年度以降に「情報科学各論（HTML 中級）」を履修したことのある人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習</li> <li>2. WWW とホームページの基礎知識</li> <li>3. 情報の単位と情報通信</li> <li>4. ハイパーテキストと HTML</li> <li>5. インターネットと情報倫理</li> <li>6. ページの構造と HTML</li> <li>7. ホームページの作成 テキスト</li> <li>8. ホームページの作成 イメージ</li> <li>9. ホームページの作成 リンク</li> <li>10. ホームページの作成 テーブル</li> <li>11. ホームページの作成 その他</li> <li>12. ホームページの作成 完成</li> <li>13. ファイルの転送とページの更新</li> <li>14. 総合復習</li> </ol> <p>クラスによって多少進度が異なることがある。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
適宜指示する。		担当教員より指示する。	

03年度以降（秋）	[HTML] 情報科学各論（HTML 中級）	担当者	金子 憲一
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 初級」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「<u>HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象</u>」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p> <p>受講上の注意： 評価方法等を詳しく説明しますので、<u>ガイダンスには必ず出席すること。</u></p> <p>平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。</p> <p>履修条件：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために）（HTML 応用 1）」のいずれかを履修した人は履修できない。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンスとイントロダクション</li> <li>2 HTML と FTP の復習（1）</li> <li>3 HTML と FTP の復習（2）</li> <li>4 インタラクティブなページ（HTML と CGI）</li> <li>5 プログラミングの基礎知識</li> <li>6 JavaScript（1）</li> <li>7 JavaScript（2）</li> <li>8 JavaScript（3）</li> <li>9 JavaScript（4）</li> <li>10 JavaScript（5）</li> <li>11 CGI の利用</li> <li>12 総合課題（1）</li> <li>13 総合課題（2）</li> <li>14 鑑賞・報告会</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。</p>		<p>授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。 最低限のルールやマナー（禁飲食等）を守れない場合は、失格を含め厳しく対応します。</p>	

03年度以降（春）	経済原論 a(経済学 a)	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学の目的と方法</li> <li>2. 家計の行動①</li> <li>3. 家計の行動②</li> <li>4. 家計の行動③</li> <li>5. 企業の行動①</li> <li>6. 企業の行動②</li> <li>7. 企業の行動③</li> <li>8. 市場の理論①</li> <li>9. 市場の理論②</li> <li>10. 厚生経済学の基本定理</li> <li>11. 不完全競争市場①</li> <li>12. 不完全競争市場②</li> <li>13. 市場の失敗</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

03年度以降（秋）	経済原論 b(経済学 b)	担当者	野村 容康
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義概要</b> 経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政・金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。</p> <p><b>講義目的</b> 身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済学の体系</li> <li>2. 国民所得の諸概念</li> <li>3. 消費と貯蓄の理論</li> <li>4. 投資の理論</li> <li>5. 国民所得決定の理論</li> <li>6. 生産物市場の分析</li> <li>7. 金融市場の分析</li> <li>8. IS-LM 分析①</li> <li>9. IS-LM 分析②</li> <li>10. インフレとデフレ</li> <li>11. 政府債務と財政赤字</li> <li>12. 経済成長論</li> <li>13. 開放マクロ経済</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて指示する。		原則として定期試験の成績で評価する。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (文法) フランス語 Ia (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
1年間でフランス語文法の概略を学ぶことを目的としています。未修クラスは週2回(1コマずつ)、既修クラスは週1回授業が行われます。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員より説明があります。		<p>クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで春学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。</p> <p>冠詞 名詞・形容詞の男性形・女性形と単数・複数 形容詞の位置 所有形容詞 指示形容詞 疑問形容詞 比較級と最上級 直説法現在の動詞の活用 (être, avoir, -er, -ir, 不規則動詞) 否定形と疑問形 否定文中の de 冠詞の縮約 近接未来と近接過去 代名動詞 等 (順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (文法) フランス語 Ib (文法)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>クラスによって使用教材と進度が異なりますので全てのクラスで共通して扱う内容とは言えませんが、一例として未修クラスで秋学期に学習する可能性のある内容を示しておきます。</p> <p>直説法複合過去・半過去・大過去 直説法単純未来・前未来 命令法 受動態 感嘆文 中性代名詞 人称代名詞 (直接目的、間接目的、強勢形) 関係代名詞 指示代名詞・所有代名詞・疑問代名詞 条件法 話法 (直接話法と間接話法) 接続法 現在分詞とジェロンディフ 使役動詞 (faire と laisser) 等 (順不同)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ia (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
この授業はフランス語で書かれたテキストを読む力を養うことを目的としており、1年生では既修クラスのみ履修します。使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に担当教員より説明があります。		担当の先生より指示されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (講読) (既修クラスのみ履修) フランス語 Ib (講読) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		同上。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (総合) フランス語 Ia (総合)	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
<p>この授業はフランス語の実力を総合的に養うことを目的としています。この授業は週2回あり（同日2コマ連続）、未修クラスは「LL」、「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1</i> を用います。既修クラスでは「LL」と同じ <i>Reflets 1</i> を使います。</p> <p>未修クラスでは特に文法や語彙の修得に中心を置きます。各課の最初にある <i>dialogue</i> の理解、関連した文法事項の学習、口頭練習、練習問題を通して、フランス語の基礎となる知識と基本的な表現を確実に身につけてゆきます。</p> <p>既修クラスではネイティブ・スピーカーが授業を担当し、会話を中心に、総合的な運用能力を身につけることを目標にします。</p> <p>進度や授業方法は担当の先生から最初の授業時に指示があります。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion I</i></th> <th><i>Reflets I</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 0</td><td>Dossier 0</td></tr> <tr><td>2</td><td>Unité 1</td><td>Dossier 1</td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Unité 2</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>Dossier 2</td></tr> <tr><td>6</td><td>Unité 3</td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 4</td><td>Dossier 3</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td>Bilan 1</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td>Dossier 4</td></tr> <tr><td>12</td><td>Unité 5</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr> </tbody> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 0	Dossier 0	2	Unité 1	Dossier 1	3			4	Unité 2		5		Dossier 2	6	Unité 3		7			8	Unité 4	Dossier 3	9			10	Bilan 1		11		Dossier 4	12	Unité 5		13			14	まとめ	まとめ
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																														
1	Unité 0	Dossier 0																																														
2	Unité 1	Dossier 1																																														
3																																																
4	Unité 2																																															
5		Dossier 2																																														
6	Unité 3																																															
7																																																
8	Unité 4	Dossier 3																																														
9																																																
10	Bilan 1																																															
11		Dossier 4																																														
12	Unité 5																																															
13																																																
14	まとめ	まとめ																																														
テキスト、参考文献		評価方法																																														
未修クラス： <i>Champion 1</i> 既修クラス： <i>Reflets 1</i>		担当の先生より指示されます。																																														

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (総合) フランス語 Ib (総合)	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
同上。		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion I</i></th> <th><i>Reflets I</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 6</td><td>Dossier 5</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td>Unité 7</td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Unité 8</td><td>Dossier 6</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td>Unité 9</td><td>Dossier 7</td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 10</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td>まとめ</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>			<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>	1	Unité 6	Dossier 5	2			3	Unité 7		4			5	Unité 8	Dossier 6	6			7	Bilan 2		8			9	Unité 9	Dossier 7	10			11	Unité 10		12			13	まとめ	まとめ	14		
	<i>Champion I</i>	<i>Reflets I</i>																																														
1	Unité 6	Dossier 5																																														
2																																																
3	Unité 7																																															
4																																																
5	Unité 8	Dossier 6																																														
6																																																
7	Bilan 2																																															
8																																																
9	Unité 9	Dossier 7																																														
10																																																
11	Unité 10																																															
12																																																
13	まとめ	まとめ																																														
14																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																														
同上。		同上。																																														

08年度以降	フランス語 I (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。</p> <p>この授業は既修クラスのみ履修します。</p> <p>教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降	フランス語 II (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ia (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」、「LL」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p> <p>(既修クラスにはこの授業はありません。)</p>		<p>進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 Ib (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 I (LL) フランス語 Ia (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業では、発音、綴り字と音、聞き取りの練習に力を入れます。</p> <p>未修クラスでは「総合」や「会話」と同じ <i>Champion 1</i>、既修クラスでは「総合」と同じ <i>Reflets 1</i> を使用します。どちらのクラスもこの授業は CAL 教室で行います。</p> <p>授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p>		<p>進度は「フランス語 I (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p><i>Champion 1</i> <i>Reflets 1</i></p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 II (LL) フランス語 Ib (LL)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>同上。</p>		<p>進度は「フランス語 II (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (文法) フランス語 IIa (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は初級文法を習得した学生に、文法上の難しい事柄について踏み込んだ説明をし、より洗練された知識を身につけてもらうことを目的としています。既修クラス、未修クラスともに週1回の授業です。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各クラスの担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (文法) フランス語 IIb (文法)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (講読) フランス語 IIa (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業はフランス語で書かれた簡単なテキストを読むことによって読解力を養うことを目的としています。</p> <p>使用教材や授業の進め方については、最初の授業時に各担当教員から説明があります。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当の先生より指示されます。</p>		<p>担当の先生より指示されます。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (講読) フランス語 IIb (講読)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (総合) フランス語 IIa (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の実力を総合的にのばすことを目的としています。授業は週2回あり(同日2コマ連続)、未修クラスでは「会話」と同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i>、既修クラスは <i>Reflets 1, 2</i> を使って、ネイティブ・スピーカーが授業を担当します。</p> <p>授業の進め方等については、各担当教員から説明があります。</p>		<p style="text-align: center;"><i>Champion 1</i>                      <i>Reflets 1</i></p> <hr/> <p>1    Unité 11                                      Dossier 8</p> <hr/> <p>2</p> <hr/> <p>3    Unité 12</p> <hr/> <p>4    Dossier 9</p> <hr/> <p>5    Bilan 3</p> <hr/> <p>6</p> <hr/> <p>7    Unité 13                                      Dossier 10</p> <hr/> <p>8</p> <hr/> <p>9    Unité 14</p> <hr/> <p>10    Dossier 11</p> <hr/> <p>11   Unité 15</p> <hr/> <p>12</p> <hr/> <p>13   まとめ                                      Dossier 12</p> <hr/> <p>14</p>	
		<p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未修クラス : <i>Champion 1</i> 既修クラス : <i>Reflets 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (総合) フランス語 IIb (総合)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p style="text-align: center;"><i>Champion 1 &amp; 2</i>                      <i>Reflets 2</i></p> <hr/> <p>1    Unité 16</p> <hr/> <p>2    Dossier 1</p> <hr/> <p>3    Bilan 6</p> <hr/> <p>4</p> <hr/> <p>5    <i>Champion 2</i> Unité 1                      Dossier 2</p> <hr/> <p>6</p> <hr/> <p>7    Unité 2</p> <hr/> <p>8    Dossier 3</p> <hr/> <p>9    Unité 3</p> <hr/> <p>10</p> <hr/> <p>11   Bilan 1                                      Dossier 4</p> <hr/> <p>12   Unité 4</p> <hr/> <p>13</p> <hr/> <p>14   まとめ                                      まとめ</p>	
		<p>原則として上記のような進度になりますが、クラスによって多少の差があります。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
未修クラス : <i>Champion 1, 2</i> 既修クラス : <i>Reflets 1, 2</i>		同上。	

08年度以降 06・07年度	フランス語 III (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIa (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>TP (= Travaux Pratiques) では学習者のレベルに応じて、様々なメディアを利用し、各自のレベルやペースに従って練習問題等の課題に取り組みます。</p> <p>この授業は既修クラスのみ履修します。</p> <p>教材や授業の進め方等については担当教員から最初の授業時に説明があります。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>担当教員より指示されます。</p>		<p>担当教員より指示されます。</p>	

08年度以降 06・07年度	フランス語 IV (TP) (既修クラスのみ履修) フランス語 IIb (TP) (既修クラスのみ履修)	担当者	担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>同上。</p>		<p>同上。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語 III (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIa (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>この授業はフランス語の運用能力をつけることを目的としています。フランス語のネイティブスピーカーが担当し、特に会話と決まった言い回しの修得を中心とした授業になります。未修クラスのみ履修します。</p> <p>教科書は、「総合」と連動して同じ教科書 <i>Champion 1, 2</i> を使用します。授業の進め方については各担当教員から説明があります。</p> <p>(既修クラスにはこの授業はありません。)</p>		<p>進度は「フランス語 III (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<i>Champion 1, 2</i>		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 07年度以前	フランス語 IV (会話) (未修クラスのみ履修) フランス語 IIb (会話) (未修クラスのみ履修)	担当者	各担当教員
講義目的、講義概要		授業計画	
同上。		<p>進度は「フランス語 IV (総合)」と同じです。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
同上。		同上。	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 III (構文) フランス語 IIa (文章表現) フランス語 IIa (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業は1年次に習得した初級文法の知識を基礎にして、フランス語で文章を書くために必要な構文を学習し、様々なフランス語の構文理解と定着を目的とします。</p> <p>必要に応じて1年生で学習した文法項目について復習しながらフランス語の文の構造を学習します。基本的な構文学習のために、短い単文を書く練習からより複雑で少し長めの複文までの練習を行います。同時に文の構造を覚える観点からも書いた文の発音練習や構文を覚えるための口頭練習等、音声練習も行います。</p> <p>具体的な授業の進め方等については各担当教員から最初に説明があります。</p> <p>(注意) 2005年度以前入学生の「フランス語 II a, b (LL)」の再履修は、2年生に 2008年度から導入されたこの科目を履修してください。</p>		担当の先生より指示されます。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
担当の先生より指示されます。		担当の先生より指示されます。	

08年度以降 06～07年度 03～05年度	フランス語 IV (構文) フランス語 IIb (文章表現) フランス語 IIb (LL)	担当者	各担当教員
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		同上。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上。		同上。	

07年度以前	総合フランス語 a	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
<p>Le but de ce cours est d'approfondir la connaissance de la langue française aussi bien sur le plan grammatical que lexical.</p> <p>Il prend la suite des cours de Sogo des premières années mais il n'a lieu qu'une fois par semaine avec un enseignant francophone. Vous devez donc travailler personnellement à la maison et préparer à l'avance.</p> <p>Le groupe 3-1 utilise <i>Panorama 2</i> à partir de la leçon 10 ; les groupes 2, 3, 4 et 5 : <i>Champion 2</i> à partir de l'unité 5.</p> <p>On insistera surtout sur la compréhension à l'écrit et à l'oral et sur l'expression écrite.</p> <p><u>Attention au numéro de votre groupe</u> : il est différent de celui de l'année dernière.</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion 2</i></th> <th><i>Panorama 2</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 5</td><td>Leçon 10</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Unité 6</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>Leçon 11</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td>Bilan 2</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 7</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>Leçon 12</td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 8</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 7 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Panorama 2</i>	1	Unité 5	Leçon 10	2			3			4	Unité 6		5		Leçon 11	6			7	Bilan 2		8	Unité 7		9		Leçon 12	10			11	Unité 8		12			13			14		
	<i>Champion 2</i>	<i>Panorama 2</i>																																														
1	Unité 5	Leçon 10																																														
2																																																
3																																																
4	Unité 6																																															
5		Leçon 11																																														
6																																																
7	Bilan 2																																															
8	Unité 7																																															
9		Leçon 12																																														
10																																																
11	Unité 8																																															
12																																																
13																																																
14																																																
テキスト、参考文献		評価方法																																														
<p><i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD.  <i>Panorama 2</i> + cahier d'exercices et CD.</p>		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																														

07年度以前	総合フランス語 b	担当者	各担当教員																																													
講義目的、講義概要		授業計画																																														
<p>Voir les explications du premier semestre.</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th><i>Champion 2</i></th> <th><i>Panorama 2</i></th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>Unité 9</td><td>Leçon 10</td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td>Bilan 3</td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td>Unité 10</td><td>Leçon 11</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>Unité 11</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>Leçon 12</td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td>Unité 12</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td>Bilan 4</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>Certaines classes peuvent n'arriver qu'à l'Unité 10 ou 11 (<i>Champion</i>).</p>			<i>Champion 2</i>	<i>Panorama 2</i>	1	Unité 9	Leçon 10	2			3			4	Bilan 3		5	Unité 10	Leçon 11	6			7			8	Unité 11		9		Leçon 12	10			11	Unité 12		12			13			14	Bilan 4	
	<i>Champion 2</i>	<i>Panorama 2</i>																																														
1	Unité 9	Leçon 10																																														
2																																																
3																																																
4	Bilan 3																																															
5	Unité 10	Leçon 11																																														
6																																																
7																																																
8	Unité 11																																															
9		Leçon 12																																														
10																																																
11	Unité 12																																															
12																																																
13																																																
14	Bilan 4																																															
テキスト、参考文献		評価方法																																														
<p><i>Champion 2</i> + cahier d'exercices et CD.  <i>Panorama 2</i> + cahier d'exercices et CD.</p>		La méthode d'évaluation des connaissances sera expliquée par chaque enseignant.																																														

07年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive: observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p> <p>参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス生活暦(1) 年中行事・祭り・イベント(クレープの日・バレンタイン・イースター・パリ際)</li> <li>2. フランスにおける日本文化: マンガ・カラオケ・ストク</li> <li>3. 食べる楽しみ: 美食の国とマルシェ文化</li> <li>4. 東京にある小さなフランス: 文化・企業・イベント</li> <li>5. バカンスの過ごし方 (1)</li> <li>6. フランスのベビーブームの秘密が知りたい!</li> <li>7. 南仏: 魅力あふれる文化&amp;ライフスタイル</li> <li>8. フランス映画のルネサンスとニューシネマ</li> <li>9. フランス教育制度: 大衆化&amp;エリート主義</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行います。	

07年度以前	フランス語文書表現法 b	担当者	B.P. レウルス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>『今どんなことが話題になっているか知りたい！だけどフランス語で新聞を読んだりテレビ番組を見たりするには vocabulary が足りない。語彙力を高めるだけでなく、話せるようになりたい、ちょっと書いてみたい、聞く練習もしたい・・・そんな授業があれば・・・』</p> <p>授業は、フランス語の広告、ポスター、テレビのC・M、website、雑誌の記事などを材料に進めていく。この授業では documents authentiques を使って、読解力・書く力・コミュニケーション能力を伸ばしていく。</p> <p>Dans ce cours nous étudierons une série de documents authentiques (presse, médias, publicités, articles de magazines, sites internet, etc.). La compréhension est progressive: observation générale du document, exercices de compréhension, activités d'expression et enfin entraînement grammatical.</p> <p>参考文献 : 「もっと知りたいフランス」 駿河台出版社 ISBN 4-411-00384-8</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス生活暦(2): 年中行事・祭り・イベント(ハロウィーンとケルト文化・ボジョレーヌーヴォー・ノエル)</li> <li>2. フランスにおける日本文化: 和食(スシ・ワカメ・シイタケ)アニメ・ブランド</li> <li>3. 食べるたのしみ: 美食の国とスローフード</li> <li>4. 東京にある小さなフランス: カフェ・グルメ・イベント</li> <li>5. バカンスの過ごし方(2)</li> <li>6. 恋愛観と結婚観: 結婚とは過去のもの?(離婚・婚外の増加・片親家族)</li> <li>7. プルタニュー地方とケルト文化。プルタニュー地方とそば文化(クレープ&amp;ガレット)</li> <li>8. 世界最大の映画祭: カンヌ国際映画祭</li> <li>9. フランス教育制度: 大衆化&amp;エリート主義(2)</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>テキスト 「シヴィ・ラング」 « Civilangue » 駿河台出版社 ISBN 4-411-01105-3</p>		授業へ積極的な参加・試験は学期末に行ないます。	

07年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. (35 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。</p> <p>手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。</p> <p>(35名まで)</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 1</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 2</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 3</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 4</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Composition finale</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07年度以前	フランス語文書表現法 b	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Ce cours d'expression écrite a pour objectif la composition française sur des sujets variés : rédiger une lettre, remplir un formulaire d'inscription, ainsi que rédiger de (petits) textes très utiles pour les e-mails (courriels) ou des lettres sur des thèmes, de préférence, choisis par les étudiants : littérature, arts, société, cinéma, cuisine et vins, voyages, mode, famille, politique, etc. (35 étudiants maximum)</p> <p>この文章表現クラスは、様々なテーマにおけるフランス語による文書作成を目的としています。</p> <p>手紙の書き方、申請書への記入の仕方をはじめとし、電子メールや郵便物を書く際に非常役立つ文章などを学びます。また、文学・美術・社会問題・映画・料理・ワイン・旅行・ファッション・家族問題・政治など、生徒の好みに応じたテーマによる文章作成も行います。</p> <p>(35名まで)</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。(変更あり)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction au cours / programme</li> <li>2. Introduction du sujet de composition 5</li> <li>3. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>4. Corrigé et commentaires</li> <li>5. Introduction du sujet de composition 6</li> <li>6. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>7. Corrigé et commentaires</li> <li>8. Introduction du sujet de composition 7</li> <li>9. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>10. Corrigé et commentaires</li> <li>11. Introduction du sujet de composition 8</li> <li>12. Réflexion / explication / rédaction</li> <li>13. Corrigé et commentaires</li> <li>14. Composition finale</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Bonjour,  Dans ce cours, nous travaillerons d'abord l'écriture d'une lettre amicale puis officielle. Ces pratiques vous seront utiles pour améliorer votre expression écrite (vocabulaire, grammaire, organisation des idées) mais aussi pour passer les épreuves écrites des niveaux A1 et A2 du DELF.</p>		<p>Cours 1 à 6 : La lettre amicale.  Cours 7 à 14 : La lettre officielle (demande d'informations, réclamation, etc...)</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et des « méthodologies » pour composer une lettre amicale et officielle.</p>		<p>L'évaluation se fera à partir des présence, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen en été.</p>	

07年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	Ch. ペリセロ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>Bonjour,  Dans ce cours, nous travaillerons la composition d'un court essai. Nous verrons comment organiser des idées en faisant <b>un plan</b>. Savoir faire un plan est utile pour les exercices écrits que vous pouvez faire dans des universités françaises ou pour passer des examens comme les niveaux B1 et B2 du DELF pour aller étudier en France.</p>		<p>Cours 1 à 2 : Lecture du sujet.  Cours 3 à 4 : Recherche des idées et choix du plan.  Cours 5 à 6 : Organisation des idées.  Cours 6 à 7 : Ecriture de l'introduction et de la conclusion.  Cours 8 à 14 : Rédaction de courts essais.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Vous ne devez pas acheter de manuel. Je vous donnerai des photocopies et une « méthodologie » pour composer un court essai.</p>		<p>L'évaluation se fera à partir des présence, du travail en classe, des devoirs (chaque semaine) et d'un examen en janvier.</p>	

07年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du premier semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

07年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	ミズバヤシ・ミシエル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Commencer à écrire en français de petits textes portant sur des sujets divers.</p>		<p><b>Contenu :</b> Ce cours s'adresse tout particulièrement aux étudiants qui souhaitent revoir les points grammaticaux de base. Tout au long de l'année, je proposerai aux étudiants des exercices diversifiés qui, en fin de parcours, leur permettront de rédiger avec un certain plaisir de petits textes en français. Le principe consistera à partir du plus simple pour aller vers des choses un peu plus compliquées. Ainsi nous partirons de la rédaction de phrases courtes tournant autour d'un point grammatical précis pour arriver à la production de petits textes traitant de sujets variés. Pour commencer notre séance d'écriture hebdomadaire nous prendrons l'habitude d'écrire ce qui nous passe par la tête en 2 ou 3 phrases et en toute spontanéité.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Apporter un dictionnaire FRANÇAIS		Contrôle continu. Un test à la fin du deuxième semestre. Participation régulière aux cours souhaitée.	

07年度以前	フランス語文章表現法 a	担当者	PH. ヴァネ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>On n'a jamais autant écrit depuis l'arrivée des téléphones portables et de l'internet. L'écriture est à la fois un moyen de communication et un moyen d'approfondir ses propres idées et sentiments. Dans ce but, elle fait appel à des règles de logique que nous essaierons de découvrir en classe :</p> <p>1) Exercices sur les articulations et les expressions de la cause, de la conséquence, du but, de l'opposition.</p> <p>2) Travail sur le plan.</p> <p>3) Comment écrire une introduction, une conclusion, un paragraphe.</p> <p>Une fois par semestre, chaque étudiant écrit librement une composition. Le devoir est rendu 3 fois. Au cours des deux premières fois, j'indique les endroits à modifier. Après la troisième rédaction, je propose une correction possible.</p>		<p>1. le 1<sup>er</sup> semestre consiste en l'étude des articulations logiques.</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>13 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>14</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2009.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

07年度以前	フランス語文章表現法 b	担当者	PH. ヴァネ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Voir ci-dessus la présentation du cours. Suite du premier semestre, en particulier étude sur les questions de plan.</p>		<p>1. le 2<sup>e</sup> semestre consiste en l'étude de la structure logique des textes</p> <p>5 Remise du devoir (1<sup>ère</sup> fois)</p> <p>8 Remise du devoir (2<sup>e</sup> fois)</p> <p>13 Remise du devoir (3<sup>e</sup> fois)</p> <p>14</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies. Avoir si possible un dictionnaire français-français, par exemple le <i>Larousse</i> de poche 2009.		Le grand devoir semestriel est noté. 人数超過の場合には初回の授業で選考を行うことがある	

07年度以前	和文仏訳 a	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本語のテキストをもとにするが、逐語訳するのではなく、自分の知っている構文を用いて、省略、倒置、言い換えなどを行いながら、自然なフランス語を書けるようななることを目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>作文が上達するためには、書いたものを直して間違いに気づくしかない。この授業では、模範解答を見る前に、各人が書いてきた文をもとに、どうすればもっと良い文なるかを全員で考える。その過程で不足している文法事項、語彙などを徐々に身につけるようにする。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 関係代名詞を含む文 1</p> <p>第3回： 関係代名詞を含む文 2</p> <p>第4回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 1</p> <p>第5回： 複合過去・半過去・大過去を含む文 2</p> <p>第6回： 条件法を含む文 1</p> <p>第7回： 接続法を含む文 2</p> <p>第8回： 理由を表す文 1</p> <p>第9回： 理由を表す文 2</p> <p>第10回： 結果を表す文 1</p> <p>第11回： 結果を表す文 2</p> <p>第12回： 譲歩を表す文 1</p> <p>第13回： 譲歩を表す文 2</p> <p>第14回： 目的を表す文 1</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	和文仏訳 b	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 「フランス人のまっかなほんど」 1</p> <p>第3回： 「フランス人のまっかなほんど」 2</p> <p>第4回： 「フランス人のまっかなほんど」 3</p> <p>第5回： 「フランス人のまっかなほんど」 4</p> <p>第6回： 「日本人のまっかなほんど」 1</p> <p>第7回： 「日本人のまっかなほんど」 2</p> <p>第8回： 「日本人のまっかなほんど」 3</p> <p>第9回： 「日本人のまっかなほんど」 4</p> <p>第10回： 週刊誌記事からの抜粋 1</p> <p>第11回： 週刊誌記事からの抜粋 2</p> <p>第12回： 週刊誌記事からの抜粋 3</p> <p>第13回： 週刊誌記事からの抜粋 4</p> <p>第14回： 週刊誌記事からの抜粋 5</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	和文仏訳 a	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>1、2年で学習した文法・語彙の知識を活用して、フランス語の文章を作る能力を高める。          簡単な単文（主語＋動詞の文）から、複文（様々な従属節―時間・理由・目的などを示す副詞節、関係代名詞節などの形容詞節―を伴う文）までの練習を行う。授業は下記の教科書の練習問題を扱う。          履修する学生は自分の試訳を準備し、その試訳を黒板に書いてもらう。毎回ほぼ全員が当たるので予習が必須である。          人数制限をする場合があるので、履修を望む学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>昨年度と同一内容なので、昨年度履修した学生は今年度履修しても学習上意味がないので注意すること。</p> <p>和仏辞典についての注意:和仏辞典(電子版を含む)の付録に付いている和仏語彙集では足りない。白水社の『現代和仏小辞典』か、旺文社の『プチ・ロワイヤル和仏辞典』を必ず手に入れること(現在品切の白水社『コンコルド和仏辞典』を持っている人はそれでよい)。</p>		<p>1回目:授業の説明。人数過多の場合は受講者制限を行う。          2回目以降教科書に沿って授業を進める。3回の授業で1課を終える進度が標準。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教科書:中村栄子『新フランス語作文実習 I(改訂版)』駿河台出版社		平常点(出席・授業への参加度)と学期末試験(ノート・辞書持ち込み不可)	

07年度以前	和文仏訳 b	担当者	筒井 伸保
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
上記参照。		教科書に沿って授業を進める。3回の授業で1課を終える進度が標準。	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
上記参照。		上記参照。	

07年度以前	フランス語会話 a	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Développer votre capacité à écouter et à vous exprimer dans un français moderne, sur des thèmes contemporains. Nous utiliserons des supports variés : de courts articles de journal, des vidéos d'actualité, des publicités dans la presse etc..</p> <p><b>Déroulement du cours :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- visionnage ou lecture du document</li> <li>- acquisition du nouveau vocabulaire, révision d'un point de grammaire, réponse aux questions de compréhension</li> <li>- réactions, discussion sur le thème abordé, mise en commun des connaissances de chacun et confrontation des points de vue.</li> <li>- La semaine suivante, courte présentation par un des étudiants de la situation au Japon,</li> <li>- Préparation par groupe de deux ou trois, d'un court dialogue sur le sujet, et présentation des dialogues aux autres groupes.</li> </ul>		<p><b>Thèmes abordés :</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. le téléphone portable et Internet : nécessaires, indispensables ?</li> <li>2. présentation et dialogues</li> <li>3. natalité : la France championne d'Europe</li> <li>4. présentation et dialogues</li> <li>5. le dimanche : un jour comme les autres ?</li> <li>6. présentation et dialogues</li> <li>7. les Français et leurs habitudes alimentaires</li> <li>8. présentation et dialogues</li> <li>9. Politique : les promesses d'Obama, premier bilan</li> <li>10. présentation et dialogues</li> <li>11. Le français qu'on parle ailleurs : Québec, Afrique...</li> <li>12. présentation et dialogues</li> <li>13. Les transports et le renouveau du train</li> <li>14. présentation et dialogues</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies remises en début de séance		Contrôle continu : -présentation et dialogues	

07年度以前	フランス語会話 b	担当者	E. クロズ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b> Développer votre capacité à écouter et à vous exprimer dans un français moderne, sur des thèmes contemporains. Nous utiliserons des supports variés : de courts articles de journal, des vidéos d'actualité, des publicités dans la presse etc..</p> <p><b>Déroulement du cours :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- visionnage ou lecture du document</li> <li>- acquisition du nouveau vocabulaire, révision d'un point de grammaire, réponse aux questions de compréhension</li> <li>- réactions, discussion sur le thème abordé, mise en commun des connaissances de chacun et confrontation des points de vue.</li> <li>- La semaine suivante, courte présentation par un des étudiants de la situation au Japon,</li> <li>- Préparation par groupe de deux ou trois, d'un court dialogue sur le sujet, et présentation des dialogues aux autres groupes.</li> </ul>		<p><b>Thèmes abordés :</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Se loger en France : maison/appartement, location/vente ?</li> <li>2. présentation et dialogues</li> <li>3. travailler chez Google : un rêve ?</li> <li>4. présentation et dialogues</li> <li>5. bandes dessinées : le 9ème art</li> <li>6. présentation et dialogues</li> <li>7. publicité : pourquoi les Français aiment la pub</li> <li>8. présentation et dialogues</li> <li>9. les jeux vidéo : que pour les jeunes ?</li> <li>10. présentation et dialogues</li> <li>11. découverte de la France d'outre-mer</li> <li>12. présentation et dialogues</li> <li>13. Vacances : des projets ?</li> <li>14. présentation et dialogues</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies remises en début de séance		Contrôle continu : -présentation et dialogues	

07年度以前	フランス語会話 a	担当者	F. ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...). Contenu de chaque cours :</p> <p>1) Quoi de neuf ?  2) Exposé présenté par un-e étudiant-e  3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance</p> <p>Chaque étudiant-e devra présenter un exposé durant le semestre.</p> <p>Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours, technique de l'exposé</li> <li>2. L'actualité en France</li> <li>3. L'actualité au Japon</li> <li>4. La chanson, la musique</li> <li>5. Le cinéma, la télévision</li> <li>6. La littérature, la lecture</li> <li>7. Les Beaux-Arts, les musées</li> <li>8. Questions de société actuelles</li> <li>9. Questions politiques actuelles</li> <li>10. Questions d'environnement</li> <li>11. Les hommes et les femmes, la parité, le couple</li> <li>12. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui</li> <li>13. Comment voyez-vous l'avenir ?</li> <li>14. Petites questions de philosophie</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

07年度以前	フランス語会話 b	担当者	F. ルーセル
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>Le but de ce cours est d'améliorer vos capacités en expression orale, à la fois pour les situations de monologue (exposé) et pour les situations d'interaction (conversation, débat...).</p> <p>Contenu de chaque cours : 1) Quoi de neuf ? 2) Exposé présenté par un-e étudiant-e 3) Conversation ou débat autour d'un document ou d'un thème annoncé à l'avance</p> <p>Chaque étudiant-e devra présenter au moins un exposé durant le semestre.</p> <p>Les thèmes indiqués ci-contre sont une liste indicative des thèmes de chaque cours. Ces grands thèmes sont identiques pour les deux semestres, mais les sujets d'exposés et de discussion (ainsi que les documents) seront différents.</p> <p>Une assiduité parfaite est requise. La participation active à la classe est prise en compte pour l'évaluation.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation du cours, technique de l'exposé</li> <li>2. L'actualité en France</li> <li>3. L'actualité au Japon</li> <li>4. La chanson, la musique</li> <li>5. Le cinéma, la télévision</li> <li>6. La littérature, la lecture</li> <li>7. Les Beaux-Arts, les musées</li> <li>8. Questions de société actuelles</li> <li>9. Questions politiques actuelles</li> <li>10. Questions d'environnement</li> <li>11. Les hommes et les femmes, la parité, le couple</li> <li>12. L'éducation. Être étudiant-e aujourd'hui</li> <li>13. Comment voyez-vous l'avenir ?</li> <li>14. Petites questions de philosophie</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
		Le contrôle est continu : la note finale sera élaborée à partir d'une « note de participation » hebdomadaire, et de la note d'exposé.	

07年度以前	フランス語会話 a	担当者	ミュノズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront répondre à des questions de compréhension et discuter des différents sujets abordés dans les documents</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Présentation à travers un jeu de questions-réponses.</li> <li>2. L'habitat</li> <li>3. Exercices et Discussion</li> <li>4. La musique</li> <li>5. Exercices et Discussion</li> <li>6. Le travail</li> <li>7. Exercices et Discussion</li> <li>8. L'argent</li> <li>9. Exercices et Discussion</li> <li>10. La télé</li> <li>11. Exercices et Discussion</li> <li>12. Les vacances</li> <li>13. Exercices et Discussion</li> <li>14. révisions</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

07年度以前	フランス語会話 b	担当者	ミュノズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>L'objectif de ce cours est d'améliorer la compréhension et l'expression orale, de reviser des points de grammaire et d'enrichir son vocabulaire sur des sujets thématiques.</p> <p>A partir de documents audio ou vidéo que nous regarderons ensemble en classe ou de documents écrits, les étudiants devront répondre à des questions de compréhension et discuter des différents sujets abordés dans les documents</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Révisions</li> <li>2. Les langues</li> <li>3. Exercices et Discussion</li> <li>4. Le cinéma</li> <li>5. Exercices et Discussion</li> <li>6. Internet</li> <li>7. Exercices et Discussion</li> <li>8. La lecture</li> <li>9. Exercices et Discussion</li> <li>10. Les vêtements, la mode</li> <li>11. Exercices et Discussion</li> <li>12. Les bonnes résolutions</li> <li>13. Exercices et Discussion</li> <li>14. révisions</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
Photocopies fournies par le professeur		La participation au cours et la remise régulière des devoirs constitueront un contrôle continu.	

07年度以前	フランス語会話 a	担当者	Michel SAGAZ ミシェル・サガズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この授業の主な目的は、学生の表現力と理解力を高めることである。主に、オーラルを重視するが、ライティングの学習も行う。もう一つの重要な目的は、文化的側面、現在のフランス社会の側面について学ぶことである。</p> <p>主要な教材として、「Variétés françaises 2009」（朝日出版社、2009年）を用いる。必要に応じて、他の教材（映画、ドキュメンタリー、新聞、雑誌の記事、歌等）も使用する。</p> <p>学生の学習のリズム、提案のあった授業活動などに合わせて授業を行う。主に、<b>学期期間中の各学生の進歩</b>（と最終的なレベル）で評価をする。学生の積極的な参加を求める。</p>		<p>以下に記した各章の作品は、学生の興味に従い、修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、概括</li> <li>2. 作品1. 理解と表現の練習問題</li> <li>3. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>4. 作品2</li> <li>5. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>6. 作品3</li> <li>7. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>8. 作品4</li> <li>9. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>10. 作品5</li> <li>11. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>12. 作品6</li> <li>13. 授業中の課題</li> <li>14. フランス文化に関する遊戯活動</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>「Variétés françaises 2009」、Christian BEAUMELOU, Koichi ISHINO, Masanari OKUBO, Yoshiro YAMAZAKI, 朝日出版社、2009年。</p>		<p>50%：課題、授業中の小テスト、期末試験 50%：出席と積極的参加</p>	

07年度以前	フランス語会話 b	担当者	Michel SAGAZ ミシェル・サガズ
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期においても、春学期から行っている学習を引き続き行う。授業で扱うテーマは異なるが、授業の構成は変わらない。</p> <p>この授業の主な目的は、学生の表現力と理解力を高め続けることである。主に、オーラルを重視するが、ライティングの学習も行う。もう一つの重要な目的は、文化的側面、現在のフランス社会の側面について学ぶことである。</p> <p>主要な教材として、「Variétés françaises 2009」（朝日出版社、2009年）を用いる。必要に応じて、他の教材（映画、ドキュメンタリー、新聞、雑誌の記事、歌等）も使用する。</p> <p>学生の学習のリズム、提案のあった授業活動などに合わせて授業を行う。主に、<b>学期期間中の各学生の進歩</b>（と最終的なレベル）で評価をする。学生の積極的な参加を求める。</p>		<p>以下に記した各章の作品は、学生の興味に従い、修正されることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション、一般的な会話「</li> <li>2. 作品7. 理解と表現の練習問題</li> <li>3. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>4. 作品8</li> <li>5. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>6. 作品9</li> <li>7. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>8. 作品10</li> <li>9. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>10. 作品11</li> <li>11. 前回学習した作品の発展学習。オーラル、ライティング両面からの学力向上を図る。</li> <li>12. 作品12</li> <li>13. 授業中の課題</li> <li>14. フランス文化に関する遊戯活動</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>「Variétés françaises 2009」、Christian BEAUMELOU, Koichi ISHINO, Masanari OKUBO, Yoshiro YAMAZAKI, 朝日出版社、2009年。</p>		<p>50%：課題、授業中の小テスト、期末試験 50%：出席と積極的参加</p>	

07年度以前	時事フランス語 a	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。</p>		<p>2009年のニュースを予測することはできませんので、2008年度春学期で扱ったテーマを以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食糧価格高騰 ハイチで暴動</li> <li>2. パリ聖火リレーに抗議行動</li> <li>3. フィヨン首相 訪日</li> <li>4. 中国でのカルフル不買運動</li> <li>5. ガリレオ 2基目の衛星打ち上げ成功</li> <li>6. ビルマ被災 国境なき医師団の活動</li> <li>7. カンヌ映画祭</li> <li>8. 燃料価格高騰で市場から魚が消える</li> <li>9. イヴ・サン・ローラン死去</li> <li>10. テニス全仏オープン, 11. サッカー・ユーロカップ</li> <li>12. EU条約アイルランドで否決, 13. ソーラーエネルギー,</li> <li>14. サミット</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

07年度以前	時事フランス語 b	担当者	井上 美穂
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の目標は、以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のニュースを見て、その意味を理解する。</li> <li>2. フランス語のホームページから必要な情報を探す。</li> <li>3. フランス語の新聞記事を読んで、意味を理解する。</li> </ol> <p>毎回の授業で、この3つの目標に沿った練習を行います。まず、フランスのニュース番組の録画を見て、その大筋をつかむ練習と、ききとりを行います。次に、そのニュースと同じテーマのホームページを見て、教員が準備した問題の答を見つけます。最後に、やはり同じテーマの新聞記事を読み、教員が用意した質問に答えます。以上の3つの練習は、すべてパソコンを使って行います。基本的にその週におきたニュースをとりあげ、それを3つの練習の共通テーマとします。</p>		<p>2009年のニュースを予測することはできませんので、2008年度春学期で扱ったテーマを以下に示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカの金融危機とフランスの銀行</li> <li>2. ワインと有機農法</li> <li>3. パリでモーターショー開かれる</li> <li>4. 東京ゲームショウ開催</li> <li>5. フランコフォニー・サミット開催</li> <li>6. モロッコ、EUと特別の関係に</li> <li>7. コンゴ民主共和国で対立激化</li> <li>8. オバマ氏当選とフランス人のアメリカ観</li> <li>9. ユーロ圏、初の景気後退</li> <li>10. もっとも多くの星を持つ都市、グルメ東京!</li> <li>11. Les Restos de Cœur オープン, 12. クリスマスの飾り、マルシェ、そしてケーキ, 13. サルコジ大統領中東歴訪とパレスチナ問題, 14. ロシアの天然ガスとヨーロッパ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはありません。辞書を必ず持参のこと。		単位を取得するには、75%以上の出席率が必要です。ABC等の評価は、学期末のテストの得点で決めます。	

07年度以前	商業フランス語 a	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を春学期で扱います。（変更あり）</p> <p>Découvrez l'entreprise  Organisation du travail  Fonction dans l'entreprise  Professions et métiers  Rechercher un emploi  Les pratiques de recrutement  Les contrats de travail</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07年度以前	商業フランス語 b	担当者	Ch.パジェス
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>ビジネスのあらゆるシチュエーションにおいて、口頭及び文書でコミュニケーションできる力を身につけることを目標とします。</p> <p>この授業では、ビジネスにおける様々なシチュエーション（ビジネスレターやメモの作成、電話での会話、アポイントメントの取り方など）を設定し、会話や文章作成の練習を行いながら、商業フランス語を学習します。</p>		<p>次の内容を秋学期で扱います。（変更あり）</p> <p>Les relations dans le travail  Prendre contact par téléphone  Traitement du courrier  Lettres et télécopies  Erreurs et excuses  Organiser son emploi du temps  Organiser un déplacement</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		出席及び授業への参加態度	

07年度以前	商業フランス語 a	担当者	大井 正博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>企業とはなにか、それが一体どのように誕生し消滅するのか。社会全体の中で企業が占めている位置とその役割。規模別に見たその特徴。これらを中心に、テキストを読みながら各種フランス語の経済用語に親しみを持てるようにしていきたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業とフランスの仲直り</li> <li>2 生き物である企業</li> <li>3 企業の実態</li> <li>4 企業の誕生・崩壊及び吸収・合併</li> <li>5 経済循環の中の企業</li> <li>6 各種経済主体の中の企業</li> <li>7 政治と企業</li> <li>8 労働組合と企業</li> <li>9 市民社会と企業</li> <li>10 企業の多様性</li> <li>11 小企業</li> <li>12 自由業</li> <li>13 中規模企業</li> <li>14 大企業</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：Olivier JAMET 著『フランスの企業』、エディシオン・フランセーズ</p>		<p>期末試験による。</p>	

07年度以前	商業フランス語 b	担当者	大井 正博
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>前期で学んだ知識をもとに、後期では会社の法的な側面及び経営のあり方を勉強する。企業が成り立つ上で当然行わねばならない各種業務についてふれ、どのような組織によりそれが実行されているかを理解する。最後に人的な面について検討し、社長はどのような仕事をするのか、求人の実態、さらには苦情処理の問題をとりあげる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 企業の法的形態</li> <li>2 人的会社</li> <li>3 株式会社</li> <li>4 協同組合</li> <li>5 公営企業</li> <li>6 企業の組織</li> <li>7 企業の経営</li> <li>8 企業の販売</li> <li>9 企業の生産</li> <li>10 組織図</li> <li>11 社長の一日</li> <li>12 秘書と社長</li> <li>13 人を雇う</li> <li>14 顧客からのクレーム</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：Olivier JAMET 著『フランスの企業』、エディシオン・フランセーズ</p>		<p>期末試験による。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論Ⅰ フランス語学概論 a	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>講義目的・概要：形の変化の面（形態論）、構文の面（統語論）、発音の面（音声学・音韻論）、意味と構文との係わりの面（意味論）から、フランス語の仕組みを解明する。毎回の授業では、その授業でテーマとなる項目について現代フランス語における原則、制約を確認しながら、仕組みを解明していく。</p> <p>受講者に求めること：受講者のフランス語力は問わないが、内容上、最低でも1年次の文法の授業内容を理解できていなければ、この授業についていくことは難しい。不安なところがある人は、予め復習しておくか、授業時間外に質問に来ること。また、フランス語に興味を持ち、授業中には、随時、各自の意見を求めるので、常に考える姿勢を持って欲しい。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。</p> <p>その他：詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、言語は生まれ、死んでいくのか。</li> <li>なぜ、70を <i>soixante-dix</i> と言うのか。</li> <li>なぜ、名詞には性があるのか。</li> <li>なぜ、Charles (男) は1人でも <i>s</i> が付くのか。François は Français なのか。</li> <li>なぜ、女性なのに、<i>grande-mère</i> ではなく、<i>grand-mère</i> なのか。なぜ、女性の友人なのに、<i>mon amie</i> なのか。</li> <li>なぜ、「春」だけ <i>au printemps</i> なのか。</li> <li>なぜ、aller の活用形は語幹さえ替わるのか。</li> <li>なぜ、否定には <i>ne</i> と <i>pas</i> という2つの要素が必要なのか。否定文中の名詞の前に付く <i>de</i> は何か。虚辞の <i>ne</i> とは何か。なぜ、否定文で用いられる <i>rien</i> と <i>personne</i> は語順が違うのか。</li> <li>なぜ、beau には <i>bel</i> という男性第二形があるのか。</li> <li>なぜ、<i>des maisons blanches</i> と言うのに、<i>de petites maisons</i> になるのか。</li> </ul> <p>扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、リアクションペーパー、論述形式の試験により評価する。卒業再試験は行わない。	

08年度以降 07年度以前	フランス語学論Ⅱ フランス語学概論 b	担当者	田中 善英
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、評価方法の説明 第2回以降：以下のようなテーマを扱う（順不同）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フランス語の音声体系。なぜ、フランス語ではリエゾン、エリゾオンなどが起こるのか。</li> <li>なぜ、初出の名詞にも定冠詞が付くことがあるのか。</li> <li>不定冠詞を用いた総称文は定冠詞を用いた総称文とどう異なるのか。</li> <li>否定文と冠詞の関係。</li> <li>なぜ、非人称構文が存在するのか。</li> <li>なぜ、受動態という形式が存在するのか。</li> <li>なぜ、<i>Que Pierre a-t-il fait ?</i> とは言えないのか。</li> <li>なぜ、疑問文以外でも主語倒置は起こるのか。</li> <li>使役構文と放任構文の仕組み。</li> <li>そもそも中性代名詞とは何か。</li> <li>副詞とは何か。</li> <li>半過去形とは何か。</li> <li>接続法とは何か。</li> </ul> <p>扱うテーマは変更になる可能性がある。また、受講者が希望するテーマを扱うこともある。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
春学期に同じ		春学期に同じ	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門Ⅰ フランス文学概論 a	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの芸術・文化に関する基礎知識を習得させ、「フランス芸術文化」部門の専門科目への導入を目的とした授業である。そのため、フランスの芸術・文化について、広範囲、多岐に、概括的なテーマを取り上げ、講義する。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅰ」(春学期)では、特に文学にテーマを絞り、フランス近・現代文学に関する概説的な講義を回り持ちで行う。1年生を主な対象者とするので、翻訳の抜粋や映像資料などを活用し、初心者に分かりやすくフランス文学に親しむ機会を提供したい。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回(4/9): ガイダンス (江花輝昭)</p> <p>第2回(4/16): 19世紀の文学1 (伊藤幸次)</p> <p>第3回(4/23): 19世紀の文学2 (伊藤幸次)</p> <p>第4回(4/30): 19世紀の文学3 (伊藤幸次)</p> <p>第5回(5/14): 恋愛小説1 (根本祐徳)</p> <p>第6回(5/21): 恋愛小説2 (根本祐徳)</p> <p>第7回(5/28): 恋愛小説3 (根本祐徳)</p> <p>第8回(6/4): 20世紀の文学1 (谷口亜沙子)</p> <p>第9回(6/11): 20世紀の文学2 (谷口亜沙子)</p> <p>第10回(6/18): 20世紀の文学3 (谷口亜沙子)</p> <p>第11回(6/25): 大衆文学1 (筒井伸保)</p> <p>第12回(7/2): 大衆文学2 (筒井伸保)</p> <p>第13回(7/9): 大衆文学3 (筒井伸保)</p> <p>第14回(7/16): まとめ (江花輝昭)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点(出席)を加味する。	

08 年度以降 07 年度以前	フランス芸術文化入門Ⅱ フランス文学概論 b	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目的は上記参照。</p> <p>「フランス芸術文化入門Ⅱ」(秋学期)では、文学以外の芸術文化一般を取り上げ、フランスの文化・芸術の各分野毎の概説・入門的な講義を行う。1年生を主な対象者とするので、できるだけ映像資料や音声資料などを活用し、初心者に分かりやすくフランス芸術文化の全体像を提示する。</p> <p>フランス語学科以外の学生でこの授業を履修する学生は、以下のことを了承した上で履修してください。「この科目はフランス語学科の学科基礎科目になっていますので、授業はフランス語学科の学生を念頭に置いて行われます。」</p>		<p>第1回(9/24): 食文化1 (江花輝昭)</p> <p>第2回(10/1): 食文化2 (江花輝昭)</p> <p>第3回(10/8): 食文化3 (江花輝昭)</p> <p>第4回(10/15): 食文化4 (江花輝昭)</p> <p>第5回(10/22): キリスト教と聖書 (前川久美子)</p> <p>第6回(10/29): 美術館へ行こう (前川久美子)</p> <p>第7回(11/5): フランスの世界遺産 (前川久美子)</p> <p>第8回(11/12): 思想入門1 (若森栄樹)</p> <p>第9回(11/19): 思想入門2 (若森栄樹)</p> <p>第10回(11/26): 思想入門3 (若森栄樹)</p> <p>第11回(12/3): フランス語と世界1 (田中善英)</p> <p>第12回(12/10): フランス語と世界2 (田中善英)</p> <p>第13回(12/17): フランス語と世界3 (田中善英)</p> <p>第14回(1/7): まとめ (江花輝昭)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリント。参考文献は各教員から授業内に指示される。		学期末試験に平常点(出席)を加味する。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史Ⅰ フランス文学史 a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランスの文学と歴史」(その1)</p> <p>フランスの中世から現代まで、作家たちがどのような文学作品を創造してきたのか、そして読者たちがどのような作品を受容してきたのかを概観することによって、文化形成の歴史の一端を探求します。「文学」ということばそのものも、フランスと日本とでは、もつ意味の広さが異なります。日本の文化・歴史をつねに念頭におきつつ、人間の文化創造の営みを相対的に理解することを目指します。</p> <p>フランス文学の歴史を、各時代の政治・宗教、あるいは絵画・彫刻・建築・音楽等の芸術思潮と関連づけながら、代表的な文学作品を紹介します。学生諸君は、自らの選択で作家・作品を選び、読みかつ論じることで、フランス文学に親しみ、作品に照らして自らの思索の方途を見だし、書くことによって論理的思考を涵養してください。</p> <p>出席者数にもよりますが、レポートを主として、時間に余裕があれば、発表してもらいます。</p> <p>自発的に選択するための手がかりとして、講義と並行して、学生諸君自身で『フランス文学史』を通読してください。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介</li> <li>2 「文学」ということばのもつ広がり (フランスと日本)</li> <li>3 「文学史」とは? 文化と歴史 (フランスと日本)</li> <li>4 フランス中世と文学 (その1)</li> <li>5 フランス中世と文学 (その2)</li> <li>6 フランス中世と文学 (その3)</li> <li>7 フランス16世紀・ルネッサンス (その1)</li> <li>8 フランス16世紀・ルネッサンス (その2)</li> <li>9 フランス16世紀・ルネッサンス (その3)</li> <li>10 レポート解説・紹介および試験</li> <li>11 フランス17世紀・古典主義 (その1)</li> <li>12 フランス17世紀・古典主義 (その2)</li> <li>13 フランス17世紀・古典主義 (その3)</li> <li>14 フランス17世紀・古典主義 (その4)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995)		授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

08年度以降 07年度以前	フランス文学史Ⅱ フランス文学史 b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランスの文学と歴史」(その2)</p> <p>授業計画に示したように、フランス文学史を時代順に概観するのと並行して、詩・演劇・小説・思想などのジャンルについても、その変遷がわかるように、随時、説明を加えます。</p> <p>授業では、可能な限り、参考書をもとに学生が選んだテーマに即して、個別具体的な作品を論じながら、時代背景と作品生成との関連を解説します。</p> <p>演劇については録画を、詩と小説については朗読の録音を紹介し、文化史的背景についてはスライド上映などで、説明を補う予定です。</p> <p>できるだけ多くの文学作品を知り、そのなかから学生諸君が自らの関心に即した作品を選び、親しむことを目標にします。</p> <p>講義は参考書を用いながら、随時テキストを抜粋したプリントで行います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 前期のまとめと後期の展望</li> <li>2 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その1)</li> <li>3 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その2)</li> <li>4 フランス18世紀・啓蒙の世紀 (その3)</li> <li>5 レポート解説・紹介および試験</li> <li>6 フランス19世紀・ロマン主義 (その1)</li> <li>7 フランス19世紀・ロマン主義 (その2)</li> <li>8 フランス19世紀・象徴主義 (その1)</li> <li>9 フランス19世紀・象徴主義 (その2)</li> <li>10 レポート解説・紹介および試験</li> <li>11 フランス20世紀・兩次大戦間の文学</li> <li>12 フランス20世紀・実存主義</li> <li>13 フランス20世紀・文芸思潮 (その1)</li> <li>14 フランス20世紀・文芸思潮 (その2)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『フランス文学史』(田村毅他、東京大学出版会、1995) 教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度(出席と発表)、レポート、場合によっては文学史的知識を問う簡単な試験による総合評価。	

07年度以前	フランス語学各論 a	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語を書いたり、話しりしていると、今までの文法だけでは不足していると思うことがよくあります。この授業ではそのような欠落している部分をできるだけ補いたと思います。プリントを使って説明した後、練習問題をやりながら、確実に使えるようになることを目指します。</p> <p>授業の概要</p> <p>1・2年次で学習した文法をふまえて、フランス語を話す・書くときに間違いやすい事項をさらに言語学的な見地から学習する。特に、コミュニケーションに欠かせない前置詞と、日本人にとって困難な冠詞、論理的な文を書くために不可欠なさまざまな表現をとりあげる。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 動詞の性質と時を表す前置詞の関係 1</p> <p>第3回： 場所を表す前置詞 1</p> <p>第4回： 場所を表す前置詞 2</p> <p>第5回： 手段を表す前置詞 1</p> <p>第6回： 手段を表す前置詞 2</p> <p>第7回： 動詞+前置詞</p> <p>第8回： être + 冠詞</p> <p>第9回： 一般的なことを表す冠詞 1</p> <p>第10回： 一般的なことを表す冠詞 2</p> <p>第11回： 部分冠詞 1</p> <p>第12回： 部分冠詞 2</p> <p>第13回： 部分冠詞 3</p> <p>第14回： 冠詞に関する練習</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	フランス語学各論 b	担当者	小石 悟
講義目的、講義概要		授業計画	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： 理由を表す接続詞</p> <p>第3回： 理由を表す前置詞 1</p> <p>第4回： 理由を表す前置詞 2</p> <p>第5回： 理由を表す動詞</p> <p>第6回： 結果を表す接続詞 1</p> <p>第7回： 結果を表す接続詞 2</p> <p>第8回： 結果を表す副詞</p> <p>第9回： 譲歩を表す接続詞</p> <p>第10回： 譲歩を表す前置詞</p> <p>第11回： 譲歩を表す表現</p> <p>第12回： 目的を表す接続詞・前置詞</p> <p>第13回： Articulateur 1</p> <p>第14回： Articulateur 2</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	フランス語学各論 a	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを通じて学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1-2 全般的なオリエンテーション。  3-5 冠詞の体系（1）：定冠詞の機能。  6-8 冠詞の体系（2）：不定冠詞の機能。  9-12 冠詞の体系（3）：部分冠詞の機能。  13 冠詞の体系（4）：無冠詞の機能。  14 まとめ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはハンドアウトを配付する。</p>		<p>評価は試験成績と出席状況による。</p>	

07年度以前	フランス語学各論 b	担当者	古川 直世
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス語という外国語が「習得する」対象であるだけでなく、同時に「考える」対象であるということを通じて学生へ伝えることをめざす。トピックを春学期と秋学期にひとつずつ設定し講義を行なう。講義の重点はフランス語に見られるさまざまな制約の存在理由について考えることにある。</p>		<p>1-4 動詞の体系（1）：法、時制、アスペクト。  5-7 動詞の体系（2）：半過去。  8-10 動詞の体系（3）：代名動詞。  11-13 関係節の諸相：制限的關係節、同格的關係節、述語的關係節。  14 まとめ。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはハンドアウトを配付する。</p>		<p>評価は試験成績と出席状況による。</p>	

08年度以降	フランス言語教育論 I	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; テーマとしては <b>Stratégies d'apprentissage</b> をとりあげる。特に「記憶」を一つのキーワードとして授業を進めていく。 授業は、学習ストラテジーについての基礎知識の習得と様々な練習問題の形式についての理解を通して、自分自身の語学学習に役立てるために実践練習も行う。主として、個人作業やグループ作業によって進める。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う（状況を見て最大40名まで可）。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. 言語学習（学ぶ立場）と言語教育（教える立場） 1</p> <p>3. " 2</p> <p>4. " 3</p> <p>5. 言語教育の変遷に見る「覚える」方法 1</p> <p>6. " 2</p> <p>7. " 3</p> <p>8. " 4</p> <p>9. " 5</p> <p>10. " 6</p> <p>11. 「記憶」につながる練習問題のタイプ 1</p> <p>12. " 2</p> <p>13. " 3</p> <p>14. " 4</p> <p>（順番は授業の進行状況により変更されることがある。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、平常点（課題、授業参加態度、グループ発表等）、定期試験。	

08年度以降	フランス言語教育論 II	担当者	中村 公子
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業ではフランス語教育を中心に言語教育について扱う。外国語を「学ぶ側」と「教える側」の双方からアプローチすることにより、自分自身にとってのより効果的な言語学習法について考えることを目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; テーマとしては <b>Stratégies d'apprentissage</b> をとりあげる。特に「記憶」を一つのキーワードとして授業を進めていく。 授業は、学習ストラテジーについての基礎知識の習得と様々な練習問題の形式についての理解を通して、自分自身の語学学習に役立てるために実践練習も行う。主として、個人作業やグループ作業によって進める。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う（状況を見て最大40名まで可）。</p>		<p>1. Introduction</p> <p>2. <b>Stratégies d'apprentissage</b> 1</p> <p>3. " 2</p> <p>4. " 3</p> <p>5. " 4</p> <p>6. " 5</p> <p>7. " 6</p> <p>8. 「記憶」のために 1</p> <p>9. " 2</p> <p>10. " 3</p> <p>11. " 4</p> <p>12. " 5</p> <p>13. " 6</p> <p>14. まとめ</p> <p>（順番は授業の進行状況により変更されることがある。）</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
プリント。必要に応じて授業で指示する。		出席、平常点（課題、授業参加態度、グループ発表等）、定期試験。	

07年度以前	フランス文学各論 a	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本年度の各論では、フランスの自伝的作品、エッセイ、日記などを取り上げます。</p> <p>小説作品とは違い、事実にもとづいて書かれた文章を読みながら、どのような時代背景があったのか、どのような事件への暗示が読み取れるのか等、ごく基本的なフランスの歴史も同時に学んでゆきます。</p> <p>一人の作家について4~5回を使い、最初に簡単な紹介、その後実際にフランス語のテキストを読み解き、最後にテキストの効果や特徴について考えます。</p> <p>最初の授業でアンケートを取りますので、必ず出席してください。</p>		<p>1. 授業の進め方の説明。</p> <p>2-14. 作家同士のつながりや影響関係、比較のおもしろさなどを大切にしたいので、あえて順番は決めずにおきます。以下の作家たちの中から、受講者の希望を考慮しつつ、半期で3~4人を論じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モンテーニュ*</li> <li>・スタンダール</li> <li>・ジッド</li> <li>・コレット</li> <li>・バタイユ</li> <li>・サルトル*</li> <li>・ジュネ*</li> <li>・フランツ・ファノン</li> <li>・バルト*</li> <li>・ナタリー・サロート</li> <li>・ル・クレジオ</li> <li>・ルソー*</li> <li>・ボードレー</li> <li>・ブルースト</li> <li>・ブルトン</li> <li>・セリーヌ</li> <li>・ポーヴォワール*</li> <li>・レリス*</li> <li>・レイモン・クノー</li> <li>・ジョルジュ・ペレック</li> <li>・クロード・シモン</li> <li>・マリー・ンディアイ</li> </ul> <p>(*印は2008年度に扱った作家)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>資料はプリントで配布します。</p> <p>参考文献：『フランス文学史』（東京大学出版会） 『新版・フランス文学史』（白水社）</p>		<p>出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで論じてもらいます。</p>	

07年度以前	フランス文学各論 b	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期を参照のこと。</p>		<p>春学期を参照のこと。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>資料はプリントで配布します。</p>		<p>出席状況とレポート。授業で扱った作家の中から一人を選んで論じてもらいます。</p>	

07年度以前	フランス文学各論 a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「19世紀フランス文学と神話」(その1)</p> <p>19世紀フランス文学、とりわけロマン主義文学においては、さまざまな神話的テーマが展開され、作品を創造する動機や骨組みをなしています。大地母神から聖母マリアにいたる「母神」あるいは「救済の女神」の神話、「呪われた種族カイン」あるいは「さまよえるユダヤ人」の神話などが、ユゴーやバルザック、そしてゾラにいたる文学作品を特徴づけています。</p> <p>主題を絞り込み、「母神」神話のうちから「イシス神話」を取りあげ、古代エジプト、オリエント(中近東)、ギリシャからローマをへて、中世・ルネッサンス期イタリア、そして近代フランスへと時代を経つつ、地域的にはエジプト、ギリシャから地中海沿岸地域に展開した「女神神話(聖母マリア信仰を含む)」の足跡をたどりながら概観します。</p> <p>作品としては、ジェラルド・ド・ネルヴァル(1808-55)の「イシス」論を読みながら、19世紀フランス文学におけるマリア信仰、諸教混淆の女神神話、等を、紹介していきます。</p>		<p>第1回:19世紀フランスの文学と社会(序論)</p> <p>第2回:文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマ</p> <p>第3回:女神神話の表象(1)</p> <p>第4回:女神神話の表象(2)</p> <p>第5回:イシス神話の変遷(1)</p> <p>第6回:イシス神話の変遷(2)</p> <p>第7回:聖母マリア信仰</p> <p>第8回:19世紀フランスにおける聖母マリア信仰と奇跡</p> <p>第9回:ネルヴァルにおける女神神話(序論)</p> <p>第10回:ネルヴァル「イシス」論の読解(1)(講義と並行して)</p> <p>第11回:ネルヴァル「イシス」論の読解(2)(講義と並行して)</p> <p>第12回:ネルヴァル「イシス」論の読解(3)(講義と並行して)</p> <p>第13回:ネルヴァル「イシス」論の読解(4)(講義と並行して)</p> <p>第14回:ネルヴァル「イシス」論の読解(5)(講義と並行して)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

07年度以前	フランス文学各論 b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「19世紀フランス文学と神話」(その2)</p> <p>神話的テーマの表象は、文学と同時期あるいはむしろ先行する、絵画・彫刻・建築、等に顕著に見られます。18世紀後半から19世紀初頭にかけて流行した、古代ギリシア・ローマの神話的表象を尊重する芸術思潮は、一般に「新古典主義」とよばれています。ダヴィッドの大画面の絵「ナポレオンの戴冠式」(1808)を見ると、ナポレオンの「皇帝即位」も、こうした新古典主義思潮の社会的表現の一部にすぎなかったのではないかとさえ考えられます。授業では、絵画・建築などを参考にしつつ、文学作品に表現された神話的テーマを探求してゆきます。</p> <p>具体的作品としては、ネルヴァルの『東方紀行』、『オーレリア』の一部を読みます。</p> <p>主題の延長上に、「人類の叙事詩(あるいは歴史)」と「人類に普遍の神話(あるいは神話の普遍性)」というテーマがあり、典型的にはユゴーの長編叙事詩集『諸世紀の伝説』(1859-1883)に表現されるので、いくつかの詩篇を紹介しします。</p>		<p>第1回:19世紀フランスの文学と社会(再論)</p> <p>第2回:文学と美術に共通するいくつかの神話的テーマについて(再展開)</p> <p>第3回:女神神話の表象(3)</p> <p>第4回:女神神話の表象(4)</p> <p>第5回:ネルヴァル「イシス」論の読解(講義と並行して)</p> <p>第6回:ネルヴァルにおける女神神話(1)('東方紀行'他)</p> <p>第7回:ネルヴァルにおける女神神話(2)('東方紀行'他)</p> <p>第8回:ネルヴァルにおける女神神話(3)('オーレリア'他)</p> <p>第9回:ネルヴァルにおける女神神話(4)('オーレリア'他)</p> <p>第10回:ネルヴァルにおける女神神話(5)('幻想詩篇(レ・シメール)')</p> <p>第11回:ネルヴァルにおける女神神話(6)('幻想詩篇(レ・シメール)')</p> <p>第12回:ユゴー『諸世紀の伝説』読解</p> <p>第13回:ユゴー『諸世紀の伝説』読解</p> <p>第14回:まとめと展望(バルザックやゾラの小説における神話的テーマについて)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考書『ジェラルド・ド・ネルヴァル 幻想から神話へ』(田村毅、東京大学出版会、2005)		授業への参加度(出席と発表)、課題を前もって示す試験。	

07年度以前	フランス語学講読 a	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>フランス語をよりよく理解するために絶対必要になる文法を学習します。特に、「書く」ことを念頭に置き、初級文法で取り上げられていない文法項目をとりあげます。「読む」場合は、極端に言えば、主語と動詞と目的語が分かればある程度意味は取れますが、「書く」「話す」など、自分でフランス語の文を作り出す場合はもっと細かい文法知識が必要になります。</p> <p>授業の概要</p> <p>書く項目ごとに説明と練習問題を交互に交え、理解したかどうかを確認しながら進みます。予習・復習は当然必要となります。その場で電子辞書で意味を引くような学生は、他の学生の足を引っ張ることになるので、遠慮してください。</p>		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： adjectif</p> <p>第3回： adverbe</p> <p>第4回： emploi passif du verbe pronominal 1</p> <p>第5回： emploi passif du verbe pronominal 2</p> <p>第6回： verbe factitif ( faire )</p> <p>第7回： se faire</p> <p>第8回： verbe + infinitif</p> <p>第9回： verbe + ( prép ) + infinitif 1</p> <p>第10回： verbe + ( prép ) + infinitif 2</p> <p>第11回： verbe + ( prép ) + infinitif 3</p> <p>第12回： emploi de certains verbes 1</p> <p>第13回： emploi de certains verbes 2</p> <p>第14回： emploi de certains verbes 3</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	フランス語学講読 b	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		<p>第1回： ガイダンス</p> <p>第2回： des / de</p> <p>第3回： ce / cela / ça</p> <p>第4回： emploi adverbial de l'adjectif</p> <p>第5回： sous-phrase 1</p> <p>第6回： sous-phrase 2</p> <p>第7回： « ne » explétif</p> <p>第8回： « de » de l'attribut 1</p> <p>第9回： « de » de l'attribut 2</p> <p>第10回： nom + à + nom</p> <p>第11回： nominalisation 1</p> <p>第12回： nominalisation 2</p> <p>第13回： double pronom relatif</p> <p>第14回： « que » complétif</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント		定期試験に平常点（出席）が加味される。	

07年度以前	フランス語学講読 a	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的：</b>辞書があればどんな文章でも読めるようなフランス語力を養成する。</p> <p><b>講義概要：</b>フランス語の文章を理解するために不可欠な様々な表現・構文を、様々な文体の1・2行程度の文章を丁寧に読んでいく（1つの作品を1年間かけて読んでいくというような形ではない）。春学期は仏検2級程度、秋学期は仏検準1級程度の文章を扱う。</p> <p><b>その他：</b>全員予習は必須。毎回ランダムに指名して答えてもらう。予習していなかったり、指名されてから訳し始めた場合などは減点。欠席する場合には、訳文を指定時刻までにメール等で提出すれば減点しない（未提出なら減点）。試験は全て応用問題、つまり授業中に扱った文章の丸暗記では全く点がとれない。初回の授業で2回目以降の教材を配布するので、受講予定者は必ず第1回目の授業に出席すること（2回目から全員指名する。初回に出席できない場合には必ず1週目の間に連絡してプリントを取りに来ること）。出席回数が規定回数に達しなければ、定期試験が満点でも評価対象としない。</p> <p><b>単語テスト：</b>毎週冒頭5分程度で実施。</p>		<p>第1回：ガイダンス、授業の進め方、予習方法の説明 第2回以降：以下のような構文を扱う：否定構文（各種否定表現、部分否定、二重否定）、強調構文、推量構文、目的構文、結果構文、対立・譲歩構文、比較構文、時の構文、使役構文、放任構文など。これ以外にも受講生の要望があれば、それを扱う。</p> <p>なお、授業方針は昨年度同様であるが、文章自体は全て昨年度とは別のものを扱う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを使用。参考文献は適宜指示する。		出席（毎回とる）、発表内容、授業への積極的参加姿勢、定期試験、単語テストにより評価する。卒業再試験は行わない。詳細は <a href="http://www.birdcompany.ch/">http://www.birdcompany.ch/</a> 参照。	

07年度以前	フランス語学講読 b	担当者	田中 善英
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
春学期に同じ		春学期に同じ	

07年度以前	フランス語学講読 a	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年度は春・秋学期ともに「Compréhension écrite」をテーマとする。春学期は主に Documents authentiques を題材にした Compréhension écrite について取り上げる。 フランス語や日本語で書かれた文献の講読とその内容理解、基礎知識の習得、フランス語教育の分野における Compréhension écrite を activités に応用した練習問題作成などを授業での学習活動として行う。そのため、授業内での個別作業やグループ作業も行うので、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う（状況をみて最大40名まで可）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction pour le FLE</li> <li>2. Introduction pour le C.E.C.R.</li> <li>3. Compréhension écrite (=C.E.) 1</li> <li>4. Compréhension écrite 2</li> <li>5. Compréhension écrite 3</li> <li>6. Compréhension écrite 4</li> <li>7. Documents authentiques (=D.A.) 1</li> <li>8. Documents authentiques 2</li> <li>9. Documents authentiques 3</li> <li>10. Documents authentiques 4</li> <li>11. C.E. et D.A. 1</li> <li>12. C.E. et D.A. 2</li> <li>13. C.E. et D.A. 3</li> <li>14. C.E. et D.A. 4</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更することがある。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、定期試験。	

07年度以前	フランス語学講読 b	担当者	中村 公子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>&lt;講義目的&gt; この授業では「外国語としてのフランス語教育」に関する内容を扱い、フランス語教育および日本語や英語なども含めた言語教育の一般的な基礎知識習得を目的とする。</p> <p>&lt;講義概要&gt; 今年度は春・秋学期ともに「Compréhension écrite」をテーマとする。秋学期は Compréhension écrite のための activités を考えていく。 フランス語や日本語で書かれた文献の講読とその内容理解、基礎知識の習得、フランス語教育の分野における Compréhension écrite を activités に応用した練習問題作成などを授業での学習活動として行う。そのため、授業内での個別作業やグループ作業も行うので、毎週、各自が課題や予習をしていることが前提となる。</p> <p>&lt;注意！&gt; もし万一、30名以上の履修希望者があった場合には、初回の授業で抽選を行う（状況をみて最大40名まで可）。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Compréhension écrite</li> <li>2. Activités 1</li> <li>3. Activités 2</li> <li>4. Activités 3</li> <li>5. Activités 4</li> <li>6. Activités 5</li> <li>7. C.E. et activités 1</li> <li>8. C.E. et activités 2</li> <li>9. C.E. et activités 3</li> <li>10. C.E. et activités 4</li> <li>11. Activités avec D.A. pour la C.E. 1</li> <li>12. Activités avec D.A. pour la C.E. 2</li> <li>13. Activités avec D.A. pour la C.E. 3</li> <li>14. Activités avec D.A. pour la C.E. 4</li> </ol> <p>(順番は授業の進行状況により変更することがある。)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント。参考文献は必要に応じて指示する。		出席、授業参加態度、課題（予習等を含む）、定期試験。	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b>          Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b>          Nous lirons ensemble un petit texte de Michel Tournier: <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>		<p>Lecture suivie du livre, <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i> : Pierrot aime Colombine, son amie d'enfance, sa jolie voisine. Colombine est blanchisseuse et travaille le jour. Pierrot est boulanger et travaille la nuit. Bien difficile pour les deux amoureux de se retrouver ! Un jour, passe le bel Arlequin, le peintre aux couleurs de l'arc-en-ciel...</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises. Dans un deuxième temps, les participants de ce cours choisiront, parmi quelques livres faciles à lire, celui qu'ils liront tout seuls pendant « les grandes vacances ».</p> <p>Attention : nous continuons la lecture de <i>Pierrot ou les secrets</i> pendant le deuxième semestre.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopies Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	ミズバヤシ・ミシェル
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>Objectif :</b>          Découvrir le plaisir de la lecture à une ou plusieurs voix. Lire seul en français n'est pas facile, mais si on parle avec d'autres personnes du texte qu'on est en train de lire, on se sent stimulé et on peut ainsi connaître la joie d'être allé jusqu'à la fin du livre.</p> <p><b>Contenu :</b>          Nous lirons ensemble la suite du texte de Michel Tournier: <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i>. Ce sera pour nous l'occasion de pénétrer dans un univers rempli de rêves et de poésie, décrit avec une simplicité et une naïveté qui savent toucher aussi bien les enfants que les adultes.</p>		<p>Nous continuerons la lecture du livre <i>Pierrot ou les secrets de la nuit</i> commencée en avril. Se reporter à ce qui a été écrit dans la case du premier semestre, ci-dessus.</p> <p>Nous attacherons beaucoup d'importance à la lecture à haute voix, une fois que les pages lues ensemble auront été comprises.</p> <p>Une partie du cours sera consacrée à un travail de groupe autour du livre qui aura été lu pendant les vacances.</p> <p>Très IMPORTANT : les étudiants qui s'inscrivent à mon cours en avril sont priés de suivre le cours pendant le deuxième semestre. D'autre part, je ne souhaite pas avoir de nouveaux étudiants en septembre, car ils arriveront en plein milieu de la lecture du livre commencée en avril, ce qui ne présente aucun intérêt.</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Photocopie Un dictionnaire français		La lecture à haute voix Un rapport à la fin du semestre Présence régulière au cours Participation active au cours Contrôle continu	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>ヴィクトル・ユゴーの原作を 1998 年にミュージカルにした『ノートル・ダム・ド・パリ』をあつかいます。舞台は中世なのですが、3000 年期に入る現代のパリとフランスのさまざまな問題、とりわけ民族、差別、格差社会を重ね合わせています。授業では原作や映画版などを適宜参照しながら、ライブ録画版の映像とテキストを鑑賞します。</p> <p>当たった学生はテキストの内容と韻律などを解説し、美しいフランス語で発音するよう努力します。他にカラオケ版を使って主要ナンバーを歌うか（教員は音痴なので歌わない）、出てきた言葉についてフランス語のサイトを参考にしてプレゼンテーションをつくります（教員はつくらない、でも時々つくる）。</p> <p>春学期は第一幕、秋学期は第二幕を主にあつかいます。昨年と同じテキストなので、昨年受講した人は、受講しても意味があまりありません。一回目の授業に必ず出席して、相談してください。</p>		<p>以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。作家、作品、参考資料の紹介</li> <li>2 カテドラルの時代</li> <li>3 サン・パピエ</li> <li>4 ボエミエヌ</li> <li>5 愚者の祭典</li> <li>6 愚者の教皇</li> <li>7 魔女</li> <li>8 奇跡の小道</li> <li>9 アナルキア</li> <li>10 美しい人よ</li> <li>11 異教のアヴェ・マリア</li> <li>12 愛の谷間</li> <li>13 宿命</li> <li>14 春学期まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
テキスト：プリント配布		テキストの解説と歌唱もしくはプレゼンテーションおよび平常点	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	伊藤 幸次
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上。		<p>以下のサブタイトルは授業のすべてをカバーするものではありません。また順序・内容とも予告なく変更することがあります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 フロランス</li> <li>2 鐘</li> <li>3 籠の鳥</li> <li>4 審判と拷問</li> <li>5 あの朝お前は踊っていた</li> <li>6 解き放たれて</li> <li>7 月</li> <li>8 神よこの世は何と不正な</li> <li>9 生きる</li> <li>10 ノートル・ダムの攻撃</li> <li>11 わが主人、わが救い主</li> <li>12 踊れ、私のエスメラルダ</li> <li>13 カテドラルの時代（ファイナル）</li> <li>14 秋学期まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>受講条件・評価方法</b>	
同上。		同上。	

07 年度以前	フランス文学講読 a	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>インターネットの時代に、もっとも必要とされる語学力は何でしょうか。それは第一に読む力、そして書く力です。会話では、目の前にいる人としかコミュニケーションすることができませんが、読む力があれば、「ここにいない人」と「好きなきに」コミュニケーションすることができます。「ここにいない人」には、地理的に遠い人だけでなく、絶対に会う機会が得られない人（すなわち死んだ人たち）も含まれます。受信できるメッセージの質と量において、読む力の開発は、話す力の開発よりも圧倒的にコストパフォーマンスが高いのです。さらに、読む力と並行して書く力を身につければ（実は書く力も読む力がベースです）、全世界の人を対象に発信することもできます。</p> <p>この授業では、そのような観点から、総合的なフランス語力向上のために、読む力を徹底的に鍛えることを目標とします。なるべく楽をして単位を取りたい人には向きません。授業では毎回何人かに当てて和訳等をしてもらいますが、単に訳をすればいいというものではありません。あくまで総合的なフランス語力向上が目的ですから、美しい発音で文章をなめらかに読むことから始めて、和訳、文法説明、語句の文化的背景説明等すべての質問をこなすことが担当者には求められます。</p> <p>今年度は、1953年に公開されてヒットした、フランスを代表する喜劇映画“Les Vacances de Monsieur Hulot”（邦題『ぼくの伯父さんの休暇』）をノベライズしたテキストを扱います。理解を助けるため、映画の方も適宜鑑賞します（古色蒼然とした白黒映画です）。</p>		<p>第1回：授業概要、作者紹介、評価方法等についての説明 第2回以降：講読</p> <p>人数超過の場合受講制限をする可能性があるため、第1回目の授業に必ず出席すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリントで配付。		学期末に定期試験を行います。平常点、出席点を加味して総合的に評価します。	

07 年度以前	フランス文学講読 b	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期の続き。春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は、特に行う予定はありません。</p>		<p>春学期の続き。</p> <p>人数超過の場合受講制限をする可能性があるため、第1回目の授業に必ず出席すること。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
テキストはプリントで配付。		学期末に定期試験を行います。平常点、出席点を加味して総合的に評価します。	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期は、現代のフランス語の小説の中から、「少年」をテーマに、三つの作品を読みます。</p> <p>自然な会話文を含む比較的やさしい小説作品を通して、フランス語の語感をつかみ、構文を取れるようになることがこの授業の目的です。</p> <p>授業は輪読形式で行います。まちがっていてもかまいませんが、家で準備をしてきてください。予習をしてきてから授業にのぞむと、その段階でまちがっていたところがわかりますので、試験のときにはまちがえなくなります。</p> <p>フランス語の文章を読み解くときのポイント、単語の覚え方のコツなどが実感できるような授業にしたいと思います。</p>		<p>1. 授業の進め方の説明。テキストの配布。第一回目から読みはじめますので、辞書を持ってきてください。</p> <p>2-5 ル・クレジオ『モンド』</p> <p>6-9 ユベール・マンガレリ『終わりの雪』</p> <p>10-14 エルヴェ・ギベール『召使と私』</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントで配布します。		出席と授業中の発表を重視。定期試験。	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	谷口 亜沙子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は「少女」をテーマにフランス語の作品の中から三つを読みます。</p>		<p>1. 授業の進め方の説明。テキストの配布。第一回から読み始めますので、辞書を持ってきてください。</p> <p>2-5 マリー・ルドネ『シルシー』</p> <p>6-9 マルグリット・デュラス『愛人』</p> <p>10-14 コレット『雌猫』</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントで配布します。		出席と授業中の発表を重視。定期試験。	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス詩を暗唱しよう」</p> <p>言語の運用能力を高めるには、まずは文章を暗記することが基本です。ことばのリズム、発音、抑揚をまるごと暗記しましょう。暗唱するには、その努力に見合う美しいフランス語を選びましょう。フランス語の粋(すい)は詩にあります。</p> <p>フランス詩は、声に出して読むために、暗唱するためにできています。美しい詩はおぼえやすくできています。詩はことばの音楽です。暗唱することによって、フランス詩の韻律を体感しましょう。「詩的快楽は(発声する)筋肉の歓び」(André Spire)です。</p> <p>短くてやさしい抒情詩から、おぼえにくい長文の叙事詩へと、段階を追って進みます。フランス詩法や韻律を解説し、フランス詩をもとにフォーレやドビュッシーが作曲したフランス歌曲を紹介します。作曲家たち、あるいは歌手たちがどのように詩を解釈し、韻律を曲にしたて、そして歌っているかを分析します。(歌の才能に恵まれた人は自ら歌ってみてください、強制はしません。)</p> <p>半年間でできるだけ多くの詩を暗記しましょう。</p>		<p>(下記は授業の目安で、学生発表の時間などが考慮されていません。)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業方法、評価方法の解説。参考資料の紹介</li> <li>2 フランス詩について (暗唱 Verlaine 1)</li> <li>3 フランス詩法について 1 (暗唱 Verlaine 2)</li> <li>4 フランス詩法について 2 (暗唱 Apollinaire 1)</li> <li>5 詩の解説と暗唱 Baudelaire 1</li> <li>6 詩の解説と暗唱 Baudelaire 2</li> <li>7 詩の解説と暗唱 Baudelaire 3</li> <li>8 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc</li> <li>9 詩の解説と暗唱 Ronsard, Dubellay, Florian, etc</li> <li>10 フランス詩と歌曲 (Verlaine et Fauré 1)</li> <li>11 フランス詩と歌曲 (Verlaine et Fauré 2)</li> <li>12 フランス詩と歌曲 (Baudelaire et Debussy 1)</li> <li>13 フランス詩と歌曲 (Baudelaire et Debussy 2)</li> <li>14 詩の暗記と暗唱について (まとめ)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度 (出席と発表)、試験 (できるだけ多くの詩句を暗記する)。	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	田村 毅
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「フランス詩を読もう」</p> <p>フランス詩を暗唱することによって、韻律を体感し、詩的快楽を堪能してもらいます。</p> <p>詩を暗唱するのと並行して、対象を徐々に短い抒情詩から長い叙事詩へと移行し、詩の物語性 (あるいは神話的構造) に着目し、「詩を読む」てほどこきをします。</p> <p>詩句における語の意味の拡がり、語義の多層性、詩句の曖昧さと想像力、散文と韻文の違い、等々について、考えながら、Hugo, Nerval, Baudelaire, Apollinaire 等の代表的な詩を読み、そして聞きます。</p> <p>詩句はさまざまに翻訳することができます。作曲家が詩句を解釈して音楽をつけたように、フランス詩を日本語に翻訳する場合にも、幾通りもの翻訳が可能であり、訳す楽しみがあります。翻訳するためには、正確な解釈が必要です、しかし、その解釈は一つではなく、翻訳に一つの正解はありません。できるだけ正確に、しかも自分のことばによる翻訳を楽しみましょう。(歌うためにも詩句の正確な解釈が必要です。)</p> <p>フランス詩を楽しむ機会はなかなかないでしょうから、授業への積極的な参加 (出席と発表) を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フランス文学における抒情詩と叙事詩</li> <li>2 詩を読む Victor Hugo 1</li> <li>3 詩を読む Victor Hugo 2</li> <li>4 詩を読む Victor Hugo 3</li> <li>5 詩を読む Victor Hugo 4</li> <li>6 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 1</li> <li>7 叙事詩と歌曲 Hugo et Fauré 2</li> <li>8 詩を楽しむ Gérard de Nerval 1</li> <li>9 詩を楽しむ Gérard de Nerval 2</li> <li>10 詩を楽しむ Gérard de Nerval 3</li> <li>11 詩を楽しむ Apollinaire 1</li> <li>12 詩を楽しむ Apollinaire 2</li> <li>13 詩を楽しむ Apollinaire 3</li> <li>14 詩と解釈、翻訳の問題 (まとめ)</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
教室で随時プリントを配布します。		授業への参加度 (出席と発表)、課題を前もって示す試験 (詩句の解釈と翻訳)。	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>19世紀の大衆小説家 Jules Verne の中編小説 <i>Les révoltés de la Bounty</i> を読む（翻訳はない）。授業は毎回、数人の学生に訳を担当してもらう。講義はまず、初級・中級の文法・語彙知識を活用して、正確に仏文を理解することを目指すので、学生は<b>全員予習が必須</b>である。</p> <p>受講者制限をする可能性があるため、履修を希望する学生は必ず1回目の授業に出席すること。</p> <p>仏和辞書についての注意：学習者用の辞書（Dico、プチ・ロワイヤル、クラウン、ジュネスなど）、電子辞書では語彙が足りない。新スタンダード仏和辞典（大修館書店）やロワイヤル仏和中辞典（旺文社）などの中辞典が必要である。</p>		<p>1回目：授業の概要の説明。作者紹介。人数過多の場合は簡単なテストで制限を行なう。</p> <p>2回目以降：講読。</p>	
テキスト、参考文献		評価方法	
Jules Verne, <i>Les révoltés de la Bounty</i> , Gallimard, Folio Junior, 2005.		定期試験および平常点（出席および予習の程度）。ただし、一度も授業中に訳を担当しない者は、出席・試験の成績の如何に関わらず、不可とする。	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	筒井 伸保
講義目的、講義概要		授業計画	
<p>上記の教科書の後半の、Jules Verne の中編小説 <i>Un drame au Mexique</i> を読む（翻訳はない）。上記参照。</p>		春学期と同様。	
テキスト、参考文献		評価方法	
上記参照。		上記参照。	

07年度以前	フランス文学講読 a	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>講義目標 比較的読みやすい作品を多く読むことで、フランス語の読解力をつけましょう。</p> <p>講義概要 今年度は Maupassant の『脂肪のかたまり』 <i>Boule de suif</i> を読みます。この作品は Flaubert から絶賛された作品で 1870 年代初頭の普仏戦争を背景に人間の愚かしさ・醜さに対する怒りを独特のタッチで描いたものです。意味の取りにくい部分があれば文化的背景を説明し、文の構造が分かりにくければ例文を挙げて語学的に説明していきます。</p> <p>時間の制約があつて部分的にしか読めませんが、インターネットで PDF 書類になっている原文が容易に手に入ります。興味がわいたら、全編を読んでください。授業の進め方などについては最初の授業で話します。履修希望者は必ず出席してください。希望者が多い場合は授業の性格上制限することがあります。</p>		<p>文学講読という科目の性質上、授業計画を立てるのは難しいことです。履修する学生は必ず予習して出席するのが原則ですが、学生の予習・復習の度合いによって授業の進度を考慮して進めます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『脂肪のかたまり』 <i>Boule de suif</i> 第三書房		学期末の定期試験と授業への参加度による。	

07年度以前	フランス文学講読 b	担当者	根本 祐徳
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
春学期に続く		春学期に続く	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
『脂肪のかたまり』 <i>Boule de suif</i> 第三書房		学期末の定期試験と授業への参加度による。	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅰ フランス文化・社会概論 a	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 現代のフランスに関する基礎知識を、言語、歴史、生活、社会問題に関する項目から概観することによって習得することを目標とする。「フランス現代社会コース」の専門科目への導入とする。</p> <p><b>講義概要</b> 複数の担当者が各々の項目について3～4コマずつ授業を受け持つ。様々なテーマが扱われるが、フランスについての興味や問題意識を早くから持ってもらえるよう一年生向けの入門内容になっている。</p>		<p>1. ガイダンス (小石 悟)</p> <p>2. フランス社会の諸問題1 (小石 悟)</p> <p>3. フランス社会の諸問題2 (小石 悟)</p> <p>4. フランス社会の諸問題3 (小石 悟)</p> <p>5. フランスの地理1 (鈴木 隆)</p> <p>6. フランスの地理2 (鈴木 隆)</p> <p>7. フランスの地理3 (鈴木 隆)</p> <p>8. フランスの歴史1 (伊籐幸次)</p> <p>9. フランスの歴史2 (伊籐幸次)</p> <p>10. フランスの歴史3 (伊籐幸次)</p> <p>11. フランスの音楽1 (松橋麻利)</p> <p>12. フランスの音楽2 (松橋麻利)</p> <p>13. フランスの音楽3 (松橋麻利)</p> <p>14. まとめ (小石 悟)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリント。 参考文献は各教員から授業中に指示される。</p>		<p>定期試験に平常点（出席）が加味される。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス現代社会入門Ⅱ フランス文化・社会概論 b	担当者	小石 悟
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><b>講義目的</b> 現代のフランスに関する基礎知識を、フランスの首都、教育、宗教、政治経済に関する項目から概観することによって習得することを目標とする。「フランス現代社会コース」の専門科目への導入とする。</p> <p><b>講義概要</b> 複数の担当者が各々の項目について3～4コマずつ授業を受け持つ。様々なテーマが扱われるが、フランスについての興味や問題意識を早くから持ってもらえるよう一年生向けの入門内容になっている。</p>		<p>1. パリ1 (横地卓也)</p> <p>2. パリ2 (横地卓也)</p> <p>3. パリ3 (横地卓也)</p> <p>4. フランスの教育1 (中村公子)</p> <p>5. フランスの教育2 (中村公子)</p> <p>6. フランスの教育3 (中村公子)</p> <p>7. フランスとヨーロッパ1 (Ph. Vanney)</p> <p>8. フランスとヨーロッパ2 (Ph. Vanney)</p> <p>9. フランスとヨーロッパ3 (Ph. Vanney)</p> <p>10. フランスの政治経済1 (廣田愛理)</p> <p>11. フランスの政治経済2 (廣田愛理)</p> <p>12. フランスの政治経済3 (廣田愛理)</p> <p>13. フランスの政治経済4 (廣田愛理)</p> <p>14. まとめ (小石 悟)</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストはプリント。 参考文献は各教員から授業中に指示される。</p>		<p>定期試験に平常点（出席）が加味される。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語圏事情 I フランス事情 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>木の文化に対して石の文化とも言われるように、フランスでは我国の木造建築とは異なる石造建築の文化が広く発達してきました。本講義は現在もフランスの歴史的な文化遺産として存在する建築の歴史を学び、フランス文化の一面を知ることが目的とします。</p> <p>フランスの建築の歴史は、過去の文化として記録の中に記されているのみでなく、現に存在する数多くの建築遺産を通して、直接見ることができます。講義では、古代、中世および近世のフランスの建築の変遷を、それぞれの建築の意味を考えながら辿ってゆきます。</p> <p>フランスの建築の歴史はヨーロッパの建築の歴史の中にも位置づけられるので、フランス以外の国や地域の建築にも触れます。また、講義の内容は秋学期の「歴史と文化1（都市と建築）」の講義の内容と重なる部分があります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 古代ギリシャ時代の建築</li> <li>3 古代ギリシャ時代の建築</li> <li>4 古代ローマ時代の建築</li> <li>5 古代ローマ時代の建築</li> <li>6 初期キリスト教建築</li> <li>7 小括</li> <li>8 中世ロマネスクの建築</li> <li>9 中世ロマネスクの建築</li> <li>10 中世ロマネスクの建築</li> <li>11 中世ゴシックの建築</li> <li>12 中世ゴシックの建築</li> <li>13 近世ルネサンスの建築</li> <li>14 総括</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更がありえます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特定のテキストは用いない。毎回の授業に関する資料を配布し、参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。</p>		<p>中間および学期末の試験によって評価します。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランス語圏事情Ⅱ フランス事情 b	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスの家族・日本の家族</p> <p>フランスの家族について、日本と比較して、どんなことを知っていますか。</p> <p>日本の家族について、いまどんなことが問題だと思いますか。フランスではどうなのか、考えてみましょう。</p>		<p>初回の授業で説明する。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に用いない。適宜プリントを配布。</p>		<p>授業への参加度とレポートで評価する。</p>	

07年度以前	フランスの地誌 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実状、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とします。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 地域の概念と実体</li> <li>3 地域の概念と実体</li> <li>4 近代地方制度の成立（旧体制の地方制度）</li> <li>5 近代地方制度の成立（県）</li> <li>6 近代地方制度の成立（県）</li> <li>7 近代地方制度の成立（レジオン）</li> <li>8 近代地方制度の成立（レジオン）</li> <li>9 小括</li> <li>10 生活圏の広がり</li> <li>11 礎自治体としてのコミューヌ</li> <li>12 ミューヌの広域連合</li> <li>13 ミューヌの広域連合</li> <li>14 総括</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更もありえます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特定のテキストは用いない。適宜、資料を配布し、参考文献は授業の中で必要に応じて紹介します。</p>		<p>中間および期末の試験によって評価します。</p>	

07年度以前	フランスの地誌 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの地域に関して、その実状、課題、取り組み等を知り、それを通してフランスについての理解を深めると同時に、人間の生活もしくは諸活動の場としての地域のあり方を考えることを目的とします。</p> <p>地域の概念と実体および地域の分析の方法などについて説明し、さらに具体的な地域を対象として資料等を参照しながら講義を進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 地域の構造</li> <li>3 地域構造</li> <li>4 地域政策</li> <li>5 地域政策</li> <li>6 新しい地域制度の模索</li> <li>7 新しい地域制度の模索</li> <li>8 小括</li> <li>9 都市政策と地域の再生</li> <li>10 都市政策と地域の再生</li> <li>11 都市政策と地域の再生</li> <li>12 都市政策と地域の再生</li> <li>13 都市政策と地域の再生</li> <li>14 総括</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更もありえます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>特定のテキストは用いない。適宜、資料を配布し、参考文献は授業の中で必要に応じて紹介します。</p>		<p>中間および期末の試験によって評価します。</p>	

07年度以前	フランスの思想 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座ではフランスの思想の歴史をデカルトから始まってデリダに至るまで追っていきます。しかしフランスの思想はドイツをはじめとするヨーロッパ諸国の思想と密接に関係しているため、フランスの思想家に大きなインパクトを与えた他国の哲学者についても述べるつもりです。</p> <p>授業は個々の思想家のテキストの抜粋を読み、解釈する形で進めます。思想の授業は知識を授けるだけでなく、自分自身でものを考えることが大切なので、受講者にも発言してもらいます。</p> <p>春学期は17世紀から19世紀までの思想を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 17世紀のフランス思想—デカルト(1)</li> <li>2 同(2)</li> <li>3 同(3)</li> <li>4 18世紀啓蒙主義とルソー(1)</li> <li>5 同(2)</li> <li>6 同(3)</li> <li>7 19世紀：フランスからドイツへ(1)</li> <li>8 同(2)</li> <li>9 同(3)</li> <li>10 ニーチェ、キルケゴール、マルクス(1)</li> <li>11 同(2)</li> <li>12 同(3)</li> <li>13 同(4)</li> <li>14 春学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント使用</p> <p>参考文献は授業の際指示します。</p>		<p>期末レポートと平常点</p>	

07年度以前	フランスの思想 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座ではフランスの思想の歴史をデカルトから始まってデリダに至るまで追っていきます。しかしフランスの思想はドイツをはじめとするヨーロッパ諸国の思想と密接に関係しているため、フランスの思想家に大きなインパクトを与えた他国の哲学者についても述べるつもりです。</p> <p>授業は個々の思想家のテキストの抜粋を読み、解釈する形で進めます。思想の授業は知識を授けるだけでなく、自分自身でものを考えることが大切なので、受講者にも発言してもらいます。</p> <p>秋学期は主に20世紀から現在までの思想を扱います。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フロイトの精神分析理論(1)</li> <li>2 同(2)</li> <li>3 同(3)</li> <li>4 ハイデガー(1)</li> <li>5 同(2)</li> <li>6 同(3)</li> <li>7 サルトルと実存主義(1)</li> <li>8 同(2)</li> <li>9 構造主義(1)</li> <li>10 同(2)</li> <li>11 バタイユ、ブランショ、デリダ(1)</li> <li>12 同(2)</li> <li>13 同(3)</li> <li>14 秋学期のまとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント使用</p> <p>参考文献は授業の際指示します。</p>		<p>期末レポートと平常点</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 I フランスの美術 a	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスというよりはヨーロッパ全体を視野に入れ、西洋美術史における比較的限定された一つの問題を追及します。</p> <p>一方的な「講義」ではなく、聴講者が積極的に考え、発表、議論してゆきます。毎回必ず予習して、積極的に授業に参加してください。</p> <p>第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。</p> <p>この授業では年度を通して(同一年度の春・秋学期)同じテーマを扱い、テーマは毎年度変わります。重複受講は歓迎しますが、一学期のみの受講(とくに同一年度の春学期を聴講せずに秋学期のみを受講すること)はご遠慮ください。</p>		<p>1 インTRODクシヨン</p> <p>2~14 文献講読、関連事項についての発表など</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>教科書は未定。</p> <p>参考文献は授業中に指示します。</p>		<p>テストと平常点(課題への取り組みと成果および発言などの授業への貢献)による。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの美術 II フランスの美術 b	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 I フランスの音楽 a	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>「祈りと音楽」という観点で西洋音楽の歴史を辿る。ここでは、キリスト教が西洋の芸術音楽発展の基礎になったことを理解し、祈りと音楽表現の問題を考えるきっかけにしたい。</p> <p>まず初期キリスト教会における音楽の位置づけを確認し、その後、時代や社会の変化とともにキリスト教がどのように音楽の形成に関わってきたかをみていく。</p> <p>楽譜や映像を活用しながら進めていくが、時には実際に歌って祈りの音楽を実感できるようにしたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. キリスト教前史</li> <li>3. グレゴリオ聖歌とその特徴、およびミサについて</li> <li>4. 中世：多声音楽の始まり（9～13世紀）</li> <li>5. 中世からルネサンスへ（14～15世紀）</li> <li>6. ルネサンスからバロックへ（16世紀）</li> <li>7. バロックの理念とオラトリオ（17世紀）</li> <li>8. フランス・バロックの宗教音楽（17世紀）</li> <li>9. バッハの教会カンタータとヘンデルのオラトリオ（18世紀前半）</li> <li>10. 古典派の宗教音楽（18世紀後半～19世紀前半）</li> <li>11. ロマン派の宗教音楽（19世紀前半）</li> <li>12. フランスの宗教音楽 1（19世紀後半）</li> <li>13. フランスの宗教音楽 2（20世紀前半）</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント 参考文献は授業時に紹介</p>		<p>出席と2回の試験による（各試験実施の時点で1/3以上欠席の学生には受験を認めない）。</p>	

08年度以降 07年度以前	フランスの音楽 II フランスの音楽 b	担当者	松橋 麻利
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>バロック時代以降の器楽と声楽（宗教音楽以外）における音楽表現の変化を時代順にみながら、人間の想像力の可能性について考える。</p> <p>楽譜や映像を活用しながら進めていく。受講生は、授業で採りあげた音楽は自分でも積極的に聴くように心がけること。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. オペラの始まり</li> <li>3. バロックの器楽 1</li> <li>4. バロックの器楽 2</li> <li>5. 18世紀古典派 1</li> <li>6. 18世紀古典派 2</li> <li>7. 18世紀古典派 3</li> <li>8. 19世紀ロマン派 1</li> <li>9. 19世紀ロマン派 2</li> <li>10. 19世紀ロマン派 3</li> <li>11. 19世紀後半フランス 1</li> <li>12. 19世紀後半フランス 2</li> <li>13. 19世紀後半フランス 3</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント 参考文献は授業時に紹介</p>		<p>出席と2回の試験による（各試験実施の時点で1/3以上欠席の学生には受験を認めない）。</p>	

07 年度以前	フランスの演劇 a	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度は 19 世紀の作品を取り上げましたが、今年度は、「20 世紀フランス演劇の諸相」というテーマで講義を行います。取り上げたいものはたくさんありますが、映像資料がないなどの問題もあるので、扱うものは限られます。</p> <p>春学期は、19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての「ブールヴァール演劇」、特にジョルジュ・フェドー (1862-1921) のヴォードヴィルの作品に焦点を当てます。喜劇なので、作品を通して「フランス的笑い」等についても考察したいと思います。</p> <p>授業では、作品の理解を助けるため DVD やビデオなども活用する予定ですが、字幕は原則としてありません。内容の解説はしますが、フランス語がよくわからない人にはきついと思います。受講者には、随時自分の頭で考えることを求めますので、受動的な態度の受講者は歓迎されません。評価は大変厳しいので、単位目当てだけの人は履修を控えたほうが賢明でしょう。</p>		<p>春学期は主に次の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 19 世紀末から第二次大戦前におけるフランスの演劇状況と時代背景</li> <li>2 ブールヴァール演劇の由来と発展</li> <li>3 ジョルジュ・フェドーの紹介</li> <li>4 作品分析 (1) -フェドー『耳に蚤』</li> <li>5 作品分析 (2) -フェドー『恋は足手まとい』</li> </ol> <p>なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

07 年度以前	フランスの演劇 b	担当者	江花 輝昭
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>秋学期は、第二次大戦後の「不条理の演劇」、特にサミュエル・ベケットとウジェーヌ・イオネスコに焦点を当てて講義を行います。戦後の世情を反映し、「ブールヴァール演劇」から現実に対する安心感を取り除いた「不安の演劇」とでも形容できるものです。</p> <p>春学期からの継続受講が望ましく、秋学期からの受講者に対する配慮は特に行う予定はありません。</p>		<p>秋学期は主に次の内容を扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 第二次大戦後のフランスの演劇状況と時代背景</li> <li>2 「不条理の演劇」とは何か</li> <li>3 サミュエル・ベケットの紹介</li> <li>4 作品分析 (1) -ベケット『ゴドーを待ちながら』</li> <li>5 ウジェーヌ・イオネスコの紹介</li> <li>6 作品分析 (2) -イオネスコ『禿の女歌手』</li> </ol> <p>なお、上記の内容は変更される場合もあります。一応の目安程度に考えてください。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
なし		学期末の定期試験による評価。ただし、原則として 3 分の 2 以上出席しなければ、単位取得は不可とします。	

07年度以前	フランスの政治 a	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>現代のフランス社会について体系的に理解するうえで、フランスの政治システムの特徴について学ぶことも有益だと言えるでしょう。本講義は、フランス政治についての基礎的な知識の習得を目的とします。具体的には、現在のフランスの政治システムが形成された歴史的背景を概観した上で、現状の政治制度について学びます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~3. フランス革命から第二帝政まで</li> <li>4~5. ヴィシー政府から第三共和制</li> <li>6. 第四共和制</li> <li>7. 第五共和制の成立</li> <li>8. 第五共和制下における政権交代</li> <li>9~13. 第五共和制の政治制度</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

07年度以前	フランスの政治 b	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランスは、ヨーロッパ統合の開始当初から今日まで、統合において常に重要な役割を担ってきました。また、ヨーロッパ統合の進展とともに、フランスの対ヨーロッパ政策は国内の政策との関わりを一層強めているのが現状です。本講義では、戦後から今日に至るまで、ヨーロッパ統合という問題にフランスがどのように対応してきたかを、同時代資料（主にフランス語）を交えつつ、政治的観点から概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 第四共和制期</li> <li>3~4. ドゴール時代</li> <li>5~6. ポンピドゥー時代</li> <li>7~8. ジスカールデスタン時代</li> <li>9~10. ミッテラン時代</li> <li>11~12. シラク時代</li> <li>13~14. 現在</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業の際に指示します。		平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）	

07年度以前	フランスの経済 a	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u></p> <p>重商主義以後のフランス経済の動向と工業化の進展についての歴史を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>フランス経済の現状の概観を説明した上で、現在のフランス経済の歴史的背景を遡る。とくに18世紀以後第二次大戦前までのフランスの経済発展史について講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義に関する一般的注意</li> <li>2. 簡単な経済用語の基礎知識</li> <li>3. 現代フランス経済概観</li> <li>4. 経済発展と工業化についての基礎知識</li> <li>5. 重商主義時代のフランス経済</li> <li>6. フランス大革命と産業革命</li> <li>7. フランス産業革命概観</li> <li>8. フランスの農業と産業革命</li> <li>9. フランスの工業化と人口問題</li> <li>10. フランスの天然資源問題と工業化</li> <li>11. フランスの保護主義と植民地経営</li> <li>12. フランスの金融制度の発展と工業化</li> <li>13. フランス工業化の社会的諸条件</li> <li>14. フランス企業経営者の社会的地位</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>パワーポイントを使用して講義する。参考文献：服部春彦、谷川稔編著『フランス近代史』（ミネルヴァ書房、1993）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

07年度以前	フランスの経済 b	担当者	千代浦 昌道
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p><u>講義目的</u></p> <p>第二次大戦後のフランス経済の歴史と現状を学び、その知識を世界と日本の政治・経済・社会諸問題についての正しい見方・考え方に役立てる。</p> <p><u>講義概要</u></p> <p>第二次世界大戦後のフランス経済の成長と変遷を、経済計画・国有化政策・民営化などの流れに沿って説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 戦後フランスの経済：基礎経済統計</li> <li>2. 戦後フランスの政治経済概観①</li> <li>3. 戦後フランスの政治経済概観②</li> <li>4. フランスの経済計画と国有化政策</li> <li>5. EEC発足とフランス経済の開放化</li> <li>6. ドゴール＝ポンピドゥー時代の経済政策</li> <li>7. ジスカールデスタンとバール・プラン</li> <li>8. ミッテラン時代の経済と経済政策①</li> <li>9. ミッテラン時代の経済と経済政策②</li> <li>10. ミッテラン時代の経済と経済政策③</li> <li>11. シラク時代の経済と経済政策①</li> <li>12. シラク時代の経済と経済政策②</li> <li>13. フランス経済の現状とサルコジ大統領の経済政策</li> <li>14. フランス経済の最新情報</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>統計資料などを随時に配布する。 パワーポイントを使用して講義する。 参考文献：渡邊啓貴著『フランス現代史』（中公新書、1998）</p>		<p>定期試験による。出欠は成績評価の参考資料とする。</p>	

07年度以前	フランス文化・社会各論 a	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>« Black, Blanc, Beur » : questions sur la diversité française</b></p> <p>Ce cours a pour but d'étudier, à travers le cas de la France, l'intégration dans une même société d'individus, de groupes, de cultures d'origines diverses. Le respect de la différence est-il possible ? Est-il souhaitable ? Le premier semestre posera surtout les données du problème en particulier d'un point de vue historique.</p> <p>Le contenu du cours pourra varier pour tenter de répondre aux souhaits des étudiants mais il est nécessaire d'avoir :</p> <p>-une bonne connaissance du français et de sa grammaire ;</p> <p>-un grand intérêt pour les questions sociales.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction générale</li> <li>2. la Métropole et la France d'outre-mer</li> <li>3. La France, pays d'immigration</li> <li>4. 1<sup>er</sup> empire colonial et la traite des noirs</li> <li>5. 2<sup>e</sup> empire colonial : Afrique, Asie et Océanie</li> <li>6. L'Algérie : (1)</li> <li>7. L'Algérie : (2)</li> <li>8. La décolonisation</li> <li>9. Les grandes vagues d'immigration au XXe siècle (1)</li> <li>10. Les grandes vagues d'immigration au XXe siècle (2)</li> <li>11. « Liberté, égalité, fraternité »</li> <li>12. Modèle français contre modèle américain ? (1)</li> <li>13. Modèle français contre modèle américain ? (2)</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Polycopiés, internet, extraits de films.</p> <p>Emmanuel Vaillant, <i>L'immigration</i>, Les essentiels Milan, 2006.</p>		<p>Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.</p>	

07年度以前	フランス文化・社会各論 b	担当者	PH. ヴァネ
講義目的、講義概要		授業計画	
<p><b>« Black, Blanc, Beur » : questions sur la diversité française</b></p> <p>Voir ci-dessus la présentation de ce cours.</p> <p>Le second semestre sera consacré à l'étude de situations contemporaines.</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Vivre en banlieue (1)</li> <li>3. Vivre en banlieue (2)</li> <li>4. Questions religieuses</li> <li>5. L'éducation, l'école : intégration ou ségrégation ? (1)</li> <li>6. L'éducation, l'école : intégration ou ségrégation ? (2)</li> <li>7. Les films : réalisateurs et acteurs de l'immigration (1)</li> <li>8. Les films : réalisateurs et acteurs de l'immigration (2)</li> <li>9. Les films : réalisateurs et acteurs de l'immigration (3)</li> <li>10. La musique</li> <li>11. La littérature</li> <li>12. La littérature (2)</li> <li>13. Racisme, racialisme et fracture sociale.</li> <li>14. Conclusion</li> </ol>	
テキスト、参考文献		評価方法	
<p>Polycopiés, internet, extraits de films.</p> <p>Patrick Weil, <i>La République et sa diversité : immigration, intégration, discrimination</i>, Seuil, 2005.</p>		<p>Variable selon le nombre des étudiants : petits tests, grand test, exposés ou rapport.</p>	

07年度以前	フランス文化・社会各論 a	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス女性の現状を EU 女性の現状のなかに位置づけて、さらには日本女性の現状との比較を通して考える。</p> <p>教員からの一方的な講義でなく、提供資料（ペーパー、インターネット、ビデオなど）を活用して、学生が自ら考え、ディスカッションやレポート発表などを通してその考えを表現できるように指導する。</p>		<p>詳しくは初回の授業で説明するが、春学期は「女性と身体」「女性と家庭生活」のテーマを中心に、避妊・中絶・性教育・DV・結婚・離婚・親権などを扱う。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に用いない。適宜プリントを配布。参考文献は第一回の授業で提示する。</p>		<p>ディスカッションへの参加度とレポート発表で評価する。</p>	

07年度以前	フランス文化・社会各論 b	担当者	井上 たか子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>フランス女性の現状を EU 女性の現状のなかに位置づけて、さらには日本女性の現状との比較を通して考える。</p> <p>教員からの一方的な講義でなく、提供資料（ペーパー、インターネット、ビデオなど）を活用して、学生が自ら考え、ディスカッションやレポート発表などを通してその考えを表現できるように指導する。</p>		<p>秋学期は「女性と労働」「女性と政治」「女性への暴力」のテーマを中心に、職業生活と家庭生活の両立・パリティ・セクシャルハラスメント・買春などを扱う。</p> <p>出来るかぎり、春・秋連続して履修することが望ましい。（人数などの関係から、秋学期のみの履修は、受け付けられない可能性もある。）</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキストは特に用いない。適宜プリントを配布。参考文献は第一回の授業で提示する。</p>		<p>ディスカッションへの参加度とレポート発表で評価する。</p>	



07年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、フランス文化の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とします。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、取り上げる遺産は8件に絞り込む予定です。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明：世界遺産について</li> <li>2 ヴェゼール渓谷の洞窟</li> <li>3 ヴェゼール渓谷の洞窟</li> <li>4 ヴェゼール渓谷の洞窟</li> <li>5 アルルの遺跡</li> <li>6 アルルの遺跡</li> <li>7 アルルの遺跡</li> <li>8 ヴェズレーの教会と丘</li> <li>9 ヴェズレーの教会と丘</li> <li>10 ヴェズレーの教会と丘</li> <li>11 モン・サン・ミシエル</li> <li>12 モン・サン・ミシエル</li> <li>13 モン・サン・ミシエル</li> <li>14 総括</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料を配布し、参考文献は授業の中で必要に応じて紹介します。		期末試験および平常授業への取り組みによって評価します	

07年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	鈴木 隆
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義は、フランスの世界遺産に関する文献の講読を通じて、フランス文化の一面を学ぶと同時に、専門的なフランス語の習得を目的とします。</p> <p>講義では、フランスにある世界遺産を順次取り上げて、その概要について学びます。年間の講義時間を考慮して、取り上げる遺産は10件程度に絞り込む予定です。</p> <p>講義は、受講生が予め割り当てられた文献の部分について発表し、それに対するコメント、補足説明などを行う形で進めます。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1 概要説明</li> <li>2 パリ・セーヌ河岸</li> <li>3 パリ・セーヌ河岸</li> <li>4 パリ・セーヌ河岸</li> <li>5 ヴェルサイユの宮殿と庭園</li> <li>6 ヴェルサイユの宮殿と庭園</li> <li>7 ヴェルサイユの宮殿と庭園</li> <li>8 ミディ運河</li> <li>9 ミディ運河</li> <li>10 ミディ運河</li> <li>11 アルク・エ・セナン王立製塩所</li> <li>12 アルク・エ・セナン王立製塩所</li> <li>13 アルク・エ・セナン王立製塩所</li> <li>14 総括</li> </ol> <p>以上の計画には多少の変更があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
資料を配布し、参考文献は授業の中で必要に応じて紹介します。		期末試験および平常授業への取り組みによって評価します	

08年度以降	現代フランス論 I	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座ではさまざまな角度から現代フランスの政治、経済、社会のありかたを見ていきます。いま世界は大変な変革の時を迎えています、世界中で起こっているさまざまな出来事に対してヨーロッパ、とくにフランスはどのように考え、どのように対処しようとしているのでしょうか。新聞、雑誌、テレビ番組などを通して、そうした問題を考えます。</p> <p>また現代フランスを理解するためには歴史を知ることが不可欠なので、歴史に触れることがあります。</p>		<p>1 講義の概要  2 現代フランスの法と政治(1)  3 同(2)  4 同(3)  5 同(4)  6 現代フランスと国際経済(1)  7 同 (2)  8 同(3)  9 同(4)  10 現代フランスの社会(1)  11 同 (2)  12 同 (3)  13 同 (4)  14 講義 (春学期) のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント使用。参考書は授業の際指示する。		出席点および期末試験	

08年度以降	現代フランス論 II	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この講座ではさまざまな角度から現代フランスの政治、経済、社会のありかたを見ていきます。いま時代は大変な変革の時を迎えています、世界で起こっているさまざまな出来事に対してヨーロッパ、とくにフランスはどのように考え、どのように対処しようとしているのでしょうか。新聞、雑誌、テレビ番組などを通して、そうした問題を考えます。</p> <p>また現代フランスを理解するためには歴史を知ることが不可欠なので、歴史に触れることがあります。</p>		<p>1 講義の概要  2 現代フランスの教育制度と若者たち (1)  2 同 (2)  3 同(3)  4 現代フランスにおける家族の問題 (1)  5 同 (2)  6 同(3)  7 もう一つのグローバリゼーション (1)  8 同 (2)  9 同 (3)  10 移民の問題(1)  11 同 (2)  12 同 (3)  13 講義 (秋学期) のまとめ  14 講義全体のまとめ</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント使用。参考書は授業の際指示する。		出席点および期末試験	

07年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、フランス語のテキストを通して、フランス社会における重要な問題のひとつである移民問題について学びます。</p> <p>本講義の目的は、できるだけ多くの文章をフランス語で読むことにより、社会科学系の文章に慣れるとともに、文章の要旨を把握する力を鍛えることにあります。1回の授業で扱うテキストの分量が多いので、はじめは辛いかもしれませんが、回を重ねるごとに楽になっていくのではないかと思います。</p>		<p>春学期は、フランスにおける移民の歴史を概観します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~4. 19世紀末から第1次大戦</li> <li>5~7. 両大戦間期から第2次大戦</li> <li>8~10. 栄光の30年</li> <li>11~13. 1970年代の不況から今日まで</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		平常点評価：授業での課題提出（70%）と小テスト2回（30%）	

07年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期と同様にフランスにおける移民問題を扱いますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、春学期に学んだことを前提にして授業を進めるので、秋学期からの履修者は予習をして移民問題に関する文章に慣れておいてください。</p>		<p>次のようなテーマのテキストを扱う予定です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. フランス国籍の取得方法</li> <li>3. フランスのサッカーチームと移民</li> <li>4~5. 労働力としての移民</li> <li>6~7. 移民と家族</li> <li>8~9. アルジェリア移民</li> <li>10. 亡命者とフランス</li> <li>11~12. 移民とスラム街</li> <li>13~14. 人種差別に対する戦い</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリント配布		平常点評価：授業での課題提出（70%）と小テスト2回（30%）	

07年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>美術作品について書いたフランス語のテキストを読みます。</p> <p>文法事項を復習しながら、丹念に辞書を引き、文章の構造を把握したうえで、訳文を書いて授業にのぞんでください。</p> <p>第一回目に聴講者を決定したいので必ず出席してください。(聴講希望者が多すぎて人数の調整をしなければならない可能性もあります)。</p>		1～14 訳読など	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
プリントを配ります。		テストに平常点を加味します。	

07年度以前	フランス文化・社会講読b	担当者	前川 久美子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
同上		同上	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
同上		同上	

07年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>(講義目的) フランス語で書かれた文章の言語構造（文法的な構造）、論理構造を的確にとらえ、内容を理解する能力を高める。 フランス語で書かれた文章を、声にしてよむことができるようにする。</p> <p>(講義概要) テキストとしてはおもに新聞・雑誌の記事・論説を用い、難易度を徐々にあげていきます。 授業に必要な解説は当然加えますが、まずは自分で文章に取り組み、疑問点を明らかにしてから授業に臨んでいただきます。学期中に数回課題を与え、提出していただきますが、作業にかなりの時間と労力が必要になることと思えます。 ある一定の数（シラバス執筆の時点では未定）の課題提出がない受講者には、単位をみとめません。 また、「声にしてよむ」ことも重視し、できる限り時間を取り、評価項目のひとつとしたいと思います。 受講者は以上の点を了承したうえで登録した、と解釈します。 なお、現時点でのフランス語の能力（TCFの得点等）は問題としません。準備さえしていればだれにでも理解できる授業になるように努力します。</p>		<p>第1回 ガイダンス 授業の進め方、参考文献、評価方法について説明します。 （受講者はガイダンスでの説明内容を理解しているものとして、授業を進め、評価をします。）</p> <p>第2回・第3回 授業の準備の仕方、課題の書き方などを、より具体的に解説します。</p> <p>第4回以降 第1回から第3回までになされた説明に沿って、授業を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>(テキスト) プリントなど (参考文献) 基本的なものは第1回目の授業で紹介し、関連する文献があればテキストごとに紹介します。</p>		<p>課題、授業時の音読。 学期末のレポート・定期試験のいずれか一方。（どちらにするかは6月上旬までに決め、伝えます。）</p>	

07年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	横地 卓哉
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>春学期参照</p>		<p>第1回 ガイダンス 主として秋学期からの受講者のために、春学期にした説明を手短かにくりかえします。 春学期からの受講者に対しては、春学期のレポート・定期試験について解説を加えます</p> <p>第2回以降 第1回になされた説明に沿って、授業を進めていきます。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>春学期参照</p>		<p>課題のレポート、音読。 学期末のレポート・定期試験のいずれか一方。（どちらにするかは11月上旬までに決め、伝えます。）</p>	

07年度以前	フランス文化・社会講読 a	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度に引き続きフランスの歌（シャンソン）を聞き、フランス語およびフランス文化に対する理解を深めます。内容は前年度とは異なります。古いものも取り上げますが、できるだけ新しいものを中心にしたいと考えています。</p> <p>フランスのポップス、シャンソンを全く知らない人に、フランスの歌の大体の歴史的な流れを知ってもらうことが授業の目的です。今年はラップやロック、政治的内容をもった歌も取り上げます。授業はDVDやipodを使用していますが、受講者はyoutube、dailymotionでおさらい可能です。</p> <p>また、フランス語の口語表現や微妙なニュアンスの表し方などを、歌を通して学ぶこともこの講座の目的のひとつです。</p>		<p>自由な形式の授業にしたいので、あらかじめ決まった授業計画はありません。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント使用。 参考文献等は授業の際、指示します。</p>		<p>レポートと平常点</p>	

07年度以前	フランス文化・社会講読 b	担当者	若森 栄樹
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>昨年度に引き続きフランスの歌（シャンソン）を聞き、フランス語およびフランス文化に対する理解を深めます。内容は前年度とは異なります。古いものも取り上げますが、できるだけ新しいものを中心にしたいと考えています。</p> <p>フランスのポップス、シャンソンを全く知らない人に、フランスの歌の大体の歴史的な流れを知ってもらうことが授業の目的です。今年はラップやロック、政治的内容をもった歌も取り上げます。授業はDVDやipodを使用していますが、受講者はyoutube、dailymotionでおさらい可能です。</p> <p>また、フランス語の口語表現や微妙なニュアンスの表し方などを、歌を通して学ぶこともこの講座の目的のひとつです。</p>		<p>自由な形式の授業にしたいので、あらかじめ決まった授業計画はありません。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>プリント使用。 参考文献等は授業の際、指示します。</p>		<p>レポートと平常点</p>	

03年度以降（春）	総合講座（音楽とことば・文学①）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料、生演奏等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハの《マタイ受難曲》における音楽とことば〉</li> <li>2. 前沢浩子（本学英語学科准教授）〈シェイクスピアと音楽〉</li> <li>3. 佐藤亜紀子（リユート奏者、東京芸術大学教育研究助手）〈リユート音楽（レクチャーコンサート）〉</li> <li>4. 佐野康子（本学英語学科専任講師）〈多様なアフリカの人と文化〉</li> <li>5. 渡部重美（本学ドイツ語学科教授）〈詩を読むための作法～韻律論入門～〉</li> <li>6. 下川浩（本学ドイツ語学科教授）〈ドイツ歌曲〉</li> <li>7. 高橋雄一郎（本学交流文化学科教授）〈ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（1）〉</li> <li>8. 高橋雄一郎（ヴェトナム戦争と映像・舞台・音楽（2））</li> <li>9. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈象徴主義の詩と歌曲〉</li> <li>10. 若森栄樹（本学フランス語学科教授）〈フランスのシャンソンにおける言葉と音楽〉</li> <li>11. 原成吉（本学英語学科教授）〈Poetry in Music —Ballad tradition &amp; Bob Dylan〉</li> <li>12. 原成吉（Music in Poetry —Poetry Performance of Gary Snyder）</li> <li>13. 前原恵美（有明教育芸術短期大学専任講師）〈歌舞伎における音楽描写について〉</li> <li>14. 木村佐千子（標題音楽について）〈まとめ〉</li> </ol> <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03年度以降（秋）	総合講座（音楽とことば・文学②）	担当者	コーディネーター 木村 佐千子
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>この総合講座では、音楽とことば・文学に関する幅広い内容を扱います。</p> <p>この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が、映像資料や録音資料等を用いて、なるべく分かりやすくお話しします。担当者の専門によって、音楽が中心になったり、文学や地域論に重点が置かれたり、歌詞の観点から音楽を論じたり、変化に富む講義内容となる予定です。それにより、受講者のみなさんの視野が広がるよう願っています。</p> <p>注意事項：授業中に音楽をお聴かせしますので、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 木村佐千子（本学ドイツ語学科准教授）〈オリエンテーション〉〈バッハのカンタータにおける音楽とことば〉</li> <li>2. 児嶋一男（本学英語学科教授）〈O'Conner の“Famine”から映画 <i>Once</i> まで ——U2 やエンヤの国の様変わり〉</li> <li>3. 上野直子（本学英語学科教授）〈レゲエの根っこと根無しのカリブ〉</li> <li>4. 上野直子（ラサの Bob・東京の“Redemption Song”）</li> <li>5. 森立子（日本大学非常勤講師）〈フランスのバロック・オペラ〉</li> <li>6. 松橋麻利（本学フランス語学科非常勤講師）〈オペラにおける人間表現〉</li> <li>7. 谷口亜沙子（本学フランス語学科専任講師）〈「カルメン」をめぐって〉</li> <li>8. 諏訪功（元本学ドイツ語学科特任教授、一橋大学名誉教授）〈「音楽とことば」。音楽とことばに共通する線的性質〉</li> <li>9. 近藤静乃（東京芸術大学非常勤講師）〈現代における「声」の魅力——日本伝統音楽の源流として〉</li> <li>10. 工藤達也（本学ドイツ語学科准教授）〈生命と神話——クラゲスの『リズムの本質』を中心に〉</li> <li>11. 木村佐千子（ルター派のコラール ～クリスマス音楽を中心に～）</li> <li>12. 山本淳（本学ドイツ語学科教授）〈「詩」としてのドイツ・ポップス〉</li> <li>13. 園田みどり（本学全学共通カリキュラム非常勤講師）〈イタリア語の韻律と音楽のかかわりについて〉</li> <li>14. 木村佐千子（交響詩について）〈まとめ〉</li> </ol> <p>※内容や担当者は変更となる場合があります。</p>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
参考文献は授業中に適宜紹介します。		出席を重視し（10回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。	

03年度以降（春）	総合講座（EUの歴史と現状1）	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つEU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。</p> <p>地域統合の歴史的前例としてのEUについては、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~4. 第2次大戦以前のヨーロッパ構想と運動</li> <li>5~7. 第2次大戦・戦後復興と欧州統合</li> <li>8~9. EUの制度的起源(1)：ECSCの成立</li> <li>10~11. EUの制度的起源(2)：EECの成立</li> <li>12~13. EECの定着期</li> <li>14. まとめ</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	

03年度以降（秋）	総合講座（EUの歴史と現状2）	担当者	廣田 愛理
<b>講義目的、講義概要</b>		<b>授業計画</b>	
<p>内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EUの歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。</p>		<p>講義の主な内容は以下のとおりです：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2~4. 通貨統合</li> <li>5~6. マーストリヒト条約以降のEU</li> <li>7~8. EUの制度</li> <li>9~10. EUの諸政策</li> <li>11. 加盟国とEU</li> <li>12~13. EU域外との関係</li> <li>14. まとめ：EUの現在の課題</li> </ol>	
<b>テキスト、参考文献</b>		<b>評価方法</b>	
<p>テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合—歴史的大実験の展望』、創元社、2005年</p>		<p>平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）</p>	